山梨県内分布調査報告書

（平成 22 年 1 月～ 12 月）

2011. 3

山 梨 県 教 育 委 員 会

序

本書は、平成22年1月から同年12月まで文化庁の補助金を得て実施した、山梨県内分布調査の試掘・確認調査、立会調査、現地踏査の結果をまとめたものです。

平成22年の調査件数は試掘・確認調査23件、立会調査30件、現地踏査1件の合計54件と前年に比べ16件増加しています。調査の規模は比較的小さいものが多いのですが、中部横断自動車道などの道路建設事業や山梨リニア実験線の工事用道路建設事業などに伴い、同じ事業内でいくつもの用地の調査をする必要があったことが調査増加の要因としてあげられます。

今回対象となった事業の内容ですが、試掘・確認調査は道路建設事業（国事業7件、県事業3件、中日本高速道路株式会社1件、東京電力株式会社1件）、建物建設事業、（県事業4件）、山梨リニア実験線建設事業（独立行政法人鉄道建設・運輸施設設備支援機構（以下、「鉄道・運輸機構」と略す）3件）、遺構確認調査など（4件）があります。立会調査は道路建設事業（国事業1件、県事業1件）、山梨リニア実験線建設事業（6件）、建物建設・解体事業（国事業1件、県事業8件）、公園整備事業（県事業2件）、公共下水道敷設事業（県事業4件）、河川改修事業（県事業4件）、避雷針設置事業など（県事業3件）があります。現地踏査は山梨リニア実験線建設事業1件です。

試掘調査では3箇所の事業について遺構・遺物が発見されました。都留バイパス建設事業は美通遺跡の調査が実施されてきましたが、今回の試掘調査でも縄文時代、平安時代の遺構が発見され、今後も発掘調査を継続していく予定です。西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業では、上コブケ遺跡（縄文・平安時代）の範囲変更と廻り田遺跡（古墳時代）、膳棚遺跡（平安時代）が新たに発見され、平成23年度から本調査を実施する予定です。県庁舎耐震化等整備事業では第一南別館跡地において甲府城跡関連の遺構が確認され、平成22年9月から12月まで発掘調査を実施しました。その結果、築城期のものと考えられる石垣が確認され、一部保存に向けての事業が進められています。このように埋蔵文化財の適切な保存措置（発掘調査等）を行うために試掘調査を実施していますが、時に、文化財保護法に基づく協議がなされず遺跡の範囲内で造成工事が行われるという事態がおき、急きょ遺跡の保存状況を確認する調査を実施したこともありました。このようなことが二度と起こらないように、今後の埋蔵文化財の取り扱いの協議を常に行うことの大切さを痛感しました。

立会調査は、ほぼ全ての調査において、遺構・遺物は確認されず工事を進めても差し支えない旨を報告していますが、県営谷村団地立替えに伴う集会所建設事業については、基礎工事中に平安時代の遺構・遺物が確認されましたので、新たに「域ノ腰2遺跡」として遺跡登録をする措置を行いました。

現地踏査については、対象範囲において埋蔵文化財の確認はされなかったので事業を進めても差し支えない旨を報告しています。

平成23年に入り、既にいくつかの事業の試掘調査等を実施していますが、今後も継続的事業、新たな諸事業について埋蔵文化財の適切な保存措置が行われるべく調査を実施していく予定です。

本報告書が文化財保護と開発事業との円滑な調整に役立つとともに、多くの方々の文化財に対する理解と保護の一助となれば幸いです。

末筆ながら、ご協力を賜った関係者各位ならびに直接調査にあたられた方々に厚く御礼申し上げます。

2011年3月

山梨県埋蔵文化財センター
所長　小野　正文

例　言

1　本報告書は、山梨県教育委員会が文化庁の補助金を受けて、平成 22 年 1 月から同年 12 月までに山梨県埋蔵文化財センターが実施した、県内の試掘・確認調査並びに立会調査の結果をまとめた報告書である。

2　本報告書は、国・県・中日本高速道路株式会社の道路建設事業、県の道路建設、建物建設事業、鉄道・運輸機構の山梨リニア実験線建設事業などの試掘・確認調査結果と県の道路建設、建物建設、河川改修、流域下水道敷設事業や鉄道・運輸機構の山梨リニア実験線建設事業などの立会調査結果、現地踏査結果を収録している。

3　本報告書における試掘・立会・踏査は、山梨県埋蔵文化財センターが実施し、各事業の調査担当者については本文に明記した。なお、本文については、各事業結果報告に基づき保坂和博、小澤美和子が編集した。

4　試掘・立会・踏査における調査状況写真及び記録図面などについては、各事業調査担当者が行い、その結果に基づき本報告書の執筆・編集などは、保坂、小澤が行った。

5　本報告書の出土品及び記録図面、記録写真などは、山梨県埋蔵文化財センターにおいて保管している。なお、試掘調査の結果、本発掘調査にいたる場合については、遺物、記録図面、写真などを調査資料として当該担当者に引き継ぎを行った。

6　試掘・確認調査作業員並びに整理作業員は次のとおりである。（敬称略・順序不同）

県庁舎耐震化等整備事業（池谷千代子、小沢利一、小澤美幸、佐野欣二、竹野章、千野富子、野澤まゆみ、原田みゆき、澤澤反子、正木恒雄、マスード・アマール、マスード・ナビード、村田勝利、望月秋夫、望月明、山本三重子、横内光夫）、県立笛吹高等学校建設事業（今津武男、河野逸廣、望月明、望月孝次）、中部横断自動車道建設事業（芦川栄、池田明宏、今津武男、小沢利一、河野逸廣、佐野欣二、佐野正之、土屋藤平、寺田正美、望月秋夫、望月明）、西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業（熊谷正博、小菅春江、小菅衛）吉田河口湖バイパス建設事業（天野日出夫、鈴木俊夫、外川昌宏、山脇照良）、整理作業員（小菅春江）

7　本試掘・立会調査及び整理作業について、次の方々にご指導、ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。（順不同）

国土交通省甲府河川国道事務所、同事務所大和国道出張所、新環状・西関東道路建設事務所建設課、中日本高速道路株式会社、鉄道・運輸機構、東京電力株式会社、法務省甲府地方検察庁、山梨県総務部管財課、山梨県土整備部中北建設事務所（河川砂防管理課、道路課）、山梨県土整備部富士東部建設事務所吉田支所、山梨県教育委員会学校施設課、山梨県農政部農業技術課、山梨県警察本部会計課、酪農試験場、流域下水道事務所、山梨県立甲府工業高等学校、山梨県立北杜高等学校、山梨県立都留高等学校、山梨県立石和高等学校、山梨県立農業大学校、甲府市教育委員会、南部町教育委員会、笛吹市教育委員会、富士吉田市教育委員会、北杜市教育委員会、南アルプス市教育委員会、身延町教育委員会、山梨市教育委員会

凡　例

1　各事業の位置図は、1/25,000 のスケールを基本としている。

2　図版縮尺については、図版内のスケールにより統一していない。

3　実測図及び写真は主要なものに限った。

本 文 目 次

序
例言
目次

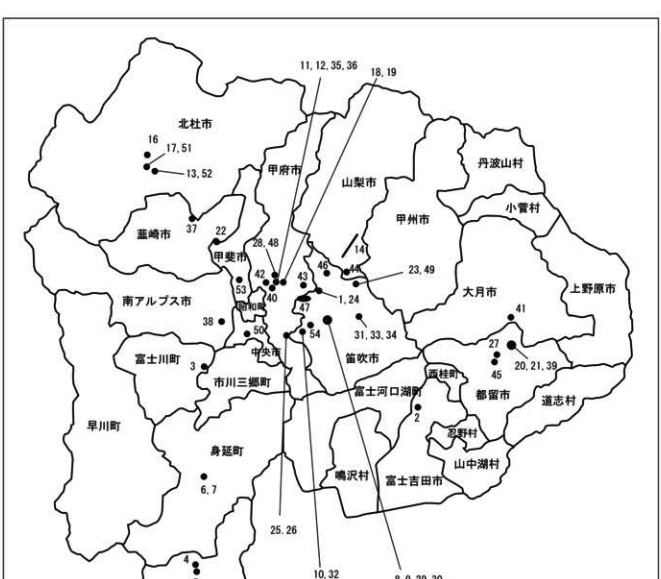
Ⅰ　試掘・確認調査
県内分布調査全体事業位置図 …… 1
1　県立笛吹高等学校建設事業《石和高校周辺遺跡》 …… 2
2　吉田河口湖バイパス建設事業《池之元遺跡》 …… 3
3　中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業《青柳河岸跡・町屋口遺跡》 …… 4
4　中部横断自動車道建設事業《清水原遺跡》 …… 5
5　中部横断自動車道建設事業（南部町地内） …… 6
6　中部横断自動車道建設事業《山の上遺跡》 …… 8
7　中部横断自動車道建設事業（身延町地内） …… 9
8　山梨リニア実験線建設事業（笛吹市御坂町竹居地内） …… 11
9　山梨リニア実験線建設事業（G 地区）（笛吹市八代町竹居地内） …… 12
10　山梨リニア実験線（増用地№２地点工事用道路）建設事業《中丸遺跡》 …… 13
11　県庁舎耐震化等整備（第一南別館解体基礎撤去）事業《甲府城跡》 …… 14
12　県庁舎耐震化等整備（議事堂仮設庁舎建設）事業《甲府城跡》 …… 15
13　原町農業高校前遺跡保存状況確認調査《原町農業高校前遺跡》 …… 17
14　西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業（山梨市万力地内外） …… 19
15　鉄塔移設事業《真篠城跡》 …… 26
16　山梨県立農業大学校施設整備事業（北杜市長坂町長坂上条地内） …… 27
17　酪農試験場場内整備（場内通路舗装）事業《酒呑場遺跡》 …… 28
18　国道 411 号城東Ⅱ期バイパス建設事業（甲府市朝気２丁目地内） …… 29
19　国道 411 号城東Ⅱ期バイパス建設事業（甲府市朝気地内） …… 30
20　都留バイパス建設事業　№ 12 地点（都留市井倉地内） …… 31
21　都留バイパス建設事業　№１地点《美通遺跡》 …… 32
22　畜産課の課題に係る調査（甲斐市菖蒲沢地内） …… 33
23　笛吹警察署金田駐在所建設事業　《橋立遺跡》 …… 34

Ⅱ　立会調査
24　県立笛吹高等学校建設事業《石和高校周辺遺跡》 …… 35
25　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（日本庭園改修）事業（甲府市下曽根町） …… 36
26　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（バンガロー基礎撤去）事業（甲府市下向山地内） …… 37
27　警察署等整備事業（運転免許課都留分室他下水道接続工事）（都留市下谷地内） …… 38
28　県立中央病院北口院長宿舎解体事業《武田城下町遺跡・甲府城下町遺跡》 …… 39
29　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業《柚木遺跡》 …… 40

30 山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業（笛吹市御坂町竹居地内、八代町竹居地内）…… 41
31 山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業《御坂中丸遺跡》…… 43
32 山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業《中丸遺跡》…… 44
33 山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業（笛吹市御坂町上黒駒地内）…… 45
34 山梨リニア実験線（黒駒トンネル終点側工事用道路）建設事業（笛吹市御坂町上黒駒地内）…… 46
35 県庁舎耐震化等整備（第一南別館解体基礎撤去）事業《甲府城跡》…… 47
36 県庁舎耐震化等整備（本館南側駐輪場解体）事業《甲府城跡》…… 48
37 国道 141 号（駒井地点）改築事業《駒井砂宮神遺跡》…… 49
38 釜無川流域下水道敷設事業《今井前第１・第２・第３遺跡》…… 50
39 都留バイパス建設事業　№１～９地点　《美通遺跡》…… 51
40 法務省甲府地方検察庁仮庁舎建設事業　《甲府城下町遺跡及び徽典館跡》…… 53
41 県立都留高等学校消火栓等修繕事業　《大月遺跡》…… 54
42 県立甲府工業高等学校グラウンド避雷針設置事業《塩部遺跡》…… 55
43 国道 140 号電線共同溝（電線類地中化）設置事業《大坪遺跡》…… 56
44 峡東流域下水道建設事業（峡東ネットワーク幹線下水道工事）（山梨市下石森地内）…… 57
45 県営谷村団地立替えに伴う集会場建設事業　（都留市つる３丁目地内）…… 58
46 平等川基幹河川改修事業《大保遺跡》…… 59
47 平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地 / 七沢の渡し場》…… 60
48 県立図書館アーケード設置事業《武田城下町遺跡・甲府城下町遺跡》…… 61
49 笛吹警察署金田駐在所建設事業《橋立遺跡》…… 62
50 鎌田川河川改修事業《堤防遺跡推定地》…… 63
51 酪農試験場場内整備（場内通路舗装）事業《酒呑場遺跡》…… 64
52 県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業《原町農業高校前遺跡》…… 65
53 貢川河川改修事業《金の尾遺跡》…… 66

Ⅲ　踏査

54 山梨リニア実験線建設事業（笛吹市八代町米倉地内）…… 67



平成 22 年　県内分布調査全体事業位置図

1. 県立笛吹高等学校建設事業　2. 吉田河口湖バイパス建設事業　3. 中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業　4. 中部横断自動車道建設事業　5. 中部横断自動車道建設事業　6,7. 中部横断自動車道建設事業　8,9. 山梨リニア実験線建設事業　10. 山梨リニア実験線建設事業　11,12. 県庁舎耐震化等整備事業　13. 原町農業高校前遺跡保存状況確認調査　14. 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業　15. 鉄塔移設事業　16. 山梨県立農業大学校施設整備事業　17. 酪農試験場場内整備事業　18,19. 国道 411 号城東Ⅱ期バイパス建設事業　20,21 都留バイパス建設事業　22. 畜産課の課題に係る調査　23. 笛吹警察署金田駐在所建設事業　24. 県立笛吹高等学校建設事業　25,26. 風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業　27. 警察署等整備事業　28. 県立中央病院北口院長宿舎解体事業　29,30. 山梨リニア実験線建設事業　31. 山梨リニア実験線建設事業　32. 山梨リニア実験線建設事業　33. 山梨リニア実験線建設事業　34. 山梨リニア実験線建設事業　35,36. 県庁舎耐震化等整備事業　37. 国道 141 号改築事業　38. 釜無川流域下水道整備事業　39. 都留バイパス建設事業　40. 法務省甲府地方検察庁舎庁舎建設事業　41. 県立都留高等学校消火栓修繕事業　42. 県立甲府工業高等学校グラウンド避雷針設置事業　43. 国道 140 号電線共同溝設置事業　44. 峡東流域下水道建設事業　45. 県営谷村団地立替えに伴う集会所建設事業　46. 平等川基幹河川改修事業　47. 平等川基幹河川改修事業　48. 県立図書館アーケード設置事業　49 笛吹警察署金田駐在所建設事業　50. 鎌田川河川改修事業　51. 酪農試験場場内整備事業　52. 県立北杜高等学校須場下水道敷設事業　53. 貢川河川改修事業　54. 山梨リニア実験線建設事業

1　県立笛吹高等学校建設事業　試掘《石和高校周辺遺跡》

所在地	笛吹市石和町市部３地内	調査期間	平成 22 年１月 13 日～ 14 日
担当者	保坂和博	調査面積	70.3㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は周知の埋蔵文化財包蔵地である石和高校周辺遺跡の範囲内における県立笛吹高等学校建設事業に伴い実施された。

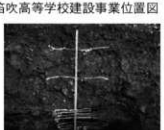
これまでに旧県立石和高等学校特別教室棟及び北側駐輪場下部解体撤去事業を行う際に立会調査および試掘調査が実施されている。今回の試掘調査対象地は、平成 21 年 12 月 24 日に行われた総務部営繕課、教育委員会学校施設課、学術文化財課と当センターとの協議に基づき、既存建物（旧県立石和高等学校）建設時に削平を受けていなかった場所で、かつ今回建設される本館、中館、屋内運動場の中で新たに掘削が及ぶ範囲となり、長さ約 11 ～ 15 m、幅約１m、深さ約 0.5 ～ 1.8 mのトレンチを５本（T1 ～ T5）設定し、実施することとなった。

各トレンチにおける土層の堆積状況は、基本的に同様であり、表土（埋土：最厚部約 150㎝）下に笛吹川の氾濫原堆積物となる砂礫層、砂層、シルト層、粘質土層が検出され、150 ～ 180㎝の深さから湧水が見られた。特に粘質土層は、鉄分や植物繊維を含み黒色を呈しており、湿地帯の形成された状況が確認された。

試掘調査の結果、遺構・遺物ともに、いずれのトレンチからも全く検出されず、また笛吹川の氾濫原となる地形的環境から遺跡は存在しないものと考えられた。よって、今回の試掘地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

第１図　県立笛吹高等学校建設事業位置図

第２図　試掘トレンチ配置図


第１号トレンチ土層堆積状況

第２号トレンチ土層堆積状況

第４号トレンチ土層堆積状況

第５号トレンチ土層堆積状況

2　吉田河口湖バイパス建設事業　試掘《池之元遺跡》

所在地	富士吉田市旭町３丁目 1805 外地内	調査期間	平成 22 年１月 25 日～ 27 日
担当者	小林健二	調査面積	205㎡

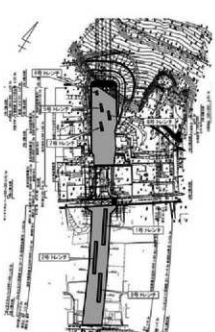
調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地一帯は、縄文時代早期から平安時代にかけての周知の埋蔵文化財包蔵地である池之元遺跡の約 150ｍ東に隣接する地域であることから、遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、長さ２～ 30ｍ、幅 1.5 ～２ｍのトレンチを７本設定し、重機及び人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

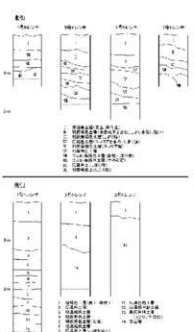
第１図　吉田河口湖バイパス建設事業位置図

東西に走る市道を挟んで、南側では南北方向に３本のトレンチを設定したが、市道際の１号トレンチでは地表下２ｍまで黒褐色・暗褐色・灰褐色の小礫を含んだ砂質の粘土層が 10 ～ 20㎝ほどの厚さで何層も堆積しており、わずかに砂礫層も見られた。部分的に地表下３ｍまで掘り下げると、厚さ 10㎝ほどの火山灰層が一部で確認できたが、ほぼ同じ堆積状況が続き遺構・遺物を確認することはできなかった。２号トレンチでは、地表下 1.2 ｍほどで溶岩層が見られ、さらに３号トレンチでは地表下 40㎝ほどで溶岩層となった。トレンチ内で確認できた厚さは２ｍほどあり、その下まで掘削することはできなかったが、１号トレンチの状況からも溶岩下から遺構・遺物が確認される可能性はないものと思われる。

また、市道の北側も、４本いずれのトレンチにおいても表土下 50㎝前後で堅くしまったローム層となり、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、池之元遺跡の範囲は当該区域にまでは及んでおらず、工事に支障はないものと判断される。



第２図　試掘トレンチ位置図



第３図　各トレンチ土層図

１号トレンチ土層堆積状況

3　中部横断自動車道(増穂インターチェンジ) 建設事業　試掘　《青柳河岸跡・町屋口遺跡》

所在地	南巨摩郡富士川町青柳字整理地 1678 －1 外	調査期間	平成 22 年 1 月 25 日～ 27 日・29 日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	492㎡

調査経緯及び事業内容と結果

中横断自動車道増穂インター周辺は、青柳河岸跡や、町屋口遺跡、藤田池遺跡等が存在し、中世～近世・近代の遺跡が所在する地域であり、当事業おいても平成 19 年～ 20 年度において用地取得を踏まえながら試掘調査を実施しており、河岸跡に関する遺構等が検出されている。

今回の試掘調査地点は、平成 20 年度に試掘調査が行われた地域に挟まれた旧水田地域が調査範囲となり、調査面積約 11,436㎡を重機によりトレンチを設定し、人力による精査を行い、遺構・遺物の確認を行った。試掘トレンチは、調査区内に、長さ 9.0 m～ 27.0 m、幅 1.5 m～ 2.5 m、深さ 1.25 m～ 2.10 mのトレンチ 21 本を設定し、調査を行った。

調査の結果、1 号～ 4 号・8 号トレンチにおいて、青灰色シルト層直上から杭列や磁器が確認されたが掘り込みなどは見られない。これについて、隣接する平成 20 年 12 月に実施した試掘調査でも杭列や磁器が確認されており、近世・近代の水田に関するものとしている。

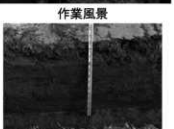
5 号～ 7 号、9 号～ 21 号トレンチにおいて、水田等の遺構や杭列、磁器などの遺物は全く見られず、「道路状遺構」などの硬化面等も全く見られなかった。

調査の結果、一部のトレンチから杭列や磁器片が出土している。しかし、前年度の試掘調査の結果でも同様の杭列や磁器片が検出されており、近世・近代の水田に関するものとしている。これについて、「作場通い道」等に直接的に関する遺構は確認されておらず、発掘調査に結びつく様な遺構や遺物の検出には至っていない。このため、今回の試掘調査範囲に関して埋蔵文化財に関する対応は必要ないと思われる。

第1図　中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業位置図

第２図　トレンチ配置図

作業風景



トレンチ土層堆積状況

4　中部横断自動車道建設事業　試掘　《清水原遺跡》

所在地	南巨摩郡南部町中野字清水原地内	調査期間	平成 22 年 2 月 15 日
担当者	山本茂樹	調査面積	60㎡

調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査箇所は、原間遺跡の北側に所在する「清水原遺跡」である。平成２０年度に試掘調査が実施されたが、遺跡の存在は確認されなかった。今回は、未取得地の約 1,600㎡について遺跡の有無確認を行うこととなった。

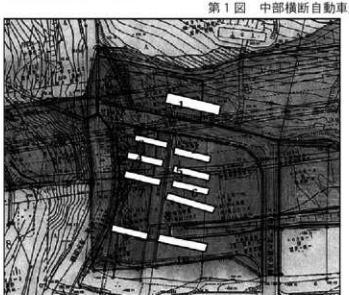
試掘調査溝は、合計で 10 本設定した。各試掘溝は、1 号では 10.6m × 1m、深さ 0.5m、2 号は 5.7m × 0.9m、深さ 0.4m、3 号は 4.7m × 0.8m、深さ 0.3m、4 号は 4.2m × 0.7m、深さ 0.3m、5 号は 9m × 0.7m、深さ 0.4m、6 号は 8.1m × 0.8m、深さ 0.3m、7 号は 5m × 0.7m、深さ 0.3m、8 号は 10.6m × 0.7m、深さ 0.35m、9 号は 5.5m × 0.7m、深さ 0.3m、10 号は 11.4m × 0.7m、深さ 0.3m で、総掘削面積は約 60㎡である。

調査区はお茶畑がほとんどであり、緩やかに東傾斜した場所であるが、山をなだらかに掘削がなされたところでもある。そのため、畑では深さが 30cm 前後で地山が確認される。

その結果、各試掘溝を精査したが、遺構・遺物は確認されなかった。

よって、文化財保護上（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項　第３条）、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はない旨を報告した。

第１図　中部横断自動車道建設事業位置図



第２図　試掘溝位置図

２・５試掘溝

各試掘溝の埋め戻し作業

5　中部横断自動車道建設事業　試掘　（南部町地内）

所在地	南巨摩郡南部町南部字古城山 9575 地先	調査期間	平成 22 年 2 月 16,17 日
担当者	山本茂樹	調査面積	約 185㎡

調査経緯及び事業内容と結果

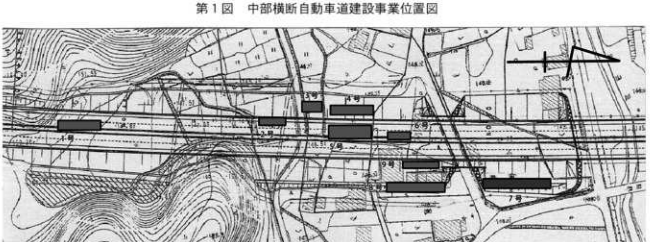
旧田んぼと宅地および畑地が試掘調査対象である。

試掘調査溝は 9 本設定した。各試掘溝について、1 号は山の傾斜地で数年前まで田んぼとして使用しており、そのため水が多くぬかるみのある場所である。現地表から 5 m まで掘削したが、青灰色の粘土層が堆積していた。

2 号は畑地であり、現地表から 3 m まで河原のよどみと思われる茶色の砂が堆積していた。3 号は現地表から 50cm までが盛土で、その下約 1.50m までが河原の礫層および砂層の互層であった。4 号も 3 号と同様な状況であった。また地表下約 60cm で礫の直上に厚さ 5cm ほどの赤茶色の土層が認められたため、5 号では平面で確認するために幅 3m ×長さ 18.6m と広めに掘削を行ったが、遺構・遺物の発見はなかった。6 号では、旧宅地であったため掘削や盛土がなされ、撹乱土を取り除くと河原の礫が認められた。7 号では長さ 19.7m ×幅 2.4m、最大深度 2.20m まで掘削したが、河原の礫層および砂層の堆積が認められるだけであった。8 号では、最大深度 2.7m まで掘削したが旧河道であったことを確認しただけである。9 号では、最大深度 2.5m まで掘削したが礫層および砂層の堆積だけであった。

調査の結果、遺構および遺物は確認されなかったことから、文化財保護上（山梨県教育委員会理蔵文化財事務取扱要項　第 3 条）、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はない旨を報告した。

第 1 図　中部横断自動車道建設事業位置図



第 2 図　試掘溝設定図

1号

2号

5号

5号

3号

7号

7号

8号

8号

9号

9号

6　中部横断自動車道建設事業　試掘　《山の上遺跡》

所在地	南巨摩郡身延町上八木沢字清水地内	調査期間	平成 22 年 2 月 18 日
担当者	山本茂樹	調査面積	約 21.6㎡

調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査箇所は、現在耕作は行われていないが、元々田んぼとして使われていた場所である。

試掘調査溝は 4 本設定した。1 本は、山が削られていたことから地山を確認するために法面を重機で掘削した。長さ 9.5m で青灰色粘土層が確認され、旧田んぼであったことが明らかにされた。2 本目の試掘溝は、幅 1.6m、長さ 4.3m を設定した。3 本目は、幅 1.4m、長さ 2.5m を設定した。掘削した結果、山を削って田んぼがつくられていたことが明らかとなった。

次の地点であるが、ここも田んぼであり、水が流れでている場所である。幅 2m、長さ 5.6m の試掘溝を設定し、深さ 2.7m まで掘削した。表土直下で青灰色粘土層が確認されたが、その下では土層に乱れが認められ、すぐ上流に堰堤があるため工事の際の掘削土が入れられたのではないかと思われる。

各地点での調査結果から、地山は既に削られており遺構・遺物は確認されなかった。

よって、文化財保護上（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項　第 3 条）、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はないものと思われる。

第 1 図　中部横断自動車道建設事業位置図

試掘調査場所

1 溝

2 溝

4 溝

7　中部横断自動車道建設事業　試掘　（身延町地内）

所在地	南巨摩郡身延町上八木沢字鰍原地内	調査期間	平成 22 年 3 月 1,2 日（第 1 回目） 同年 8 月 9,10 日（第 2 回目）
担当者	山本茂樹	調査面積	210㎡

調査経緯及び事業内容と結果

（仮称）身延インターへのアクセス道路建設に伴う試掘調査の実施である。試掘箇所のほとんどは畑として利用されていた場所で、北へ緩やかに傾斜し、江戸時代頃の石塔がいくつか存在するところである。南に連なる山には神社もあり、立地条件などから遺跡が存在している可能性が認められる場所でもある。

第 1 回目は、用地の取得された場所に試掘調査坑を 8 本設定し、人力による掘削を行った。

1 坑から 4 坑までは、用地の西側の比較的平坦な場所に試掘坑を設定し掘削を行ったところ、各試掘坑では現地表から 0.3m 前後までは耕作土、その下には地山の黄褐色土（粘性、しまりあり）であった。5 坑から 7 坑までは用地のほぼ中央にあたり、8 坑を除いてはほぼ平坦な場所である。各試掘坑の深さは、0.3m 前後で地山の黄褐色土が認められた。8 坑は河川に向かって西に傾斜する場所で、深さ 0.25m で掘削したところ、各試掘坑で確認された地山が認められた。なお、3 坑と 4 坑の東側には水路が設置されており、この箇所については傾斜がきつく水路の脇であること、周囲の試掘結果などを考慮し試掘坑は設定しなかった。

第 2 回目は、東西に伸びる現道の南側で一段高くなった畑地である。第 1 回目の継続事業で、試掘坑を 10 本設定し人力による掘削を行った。

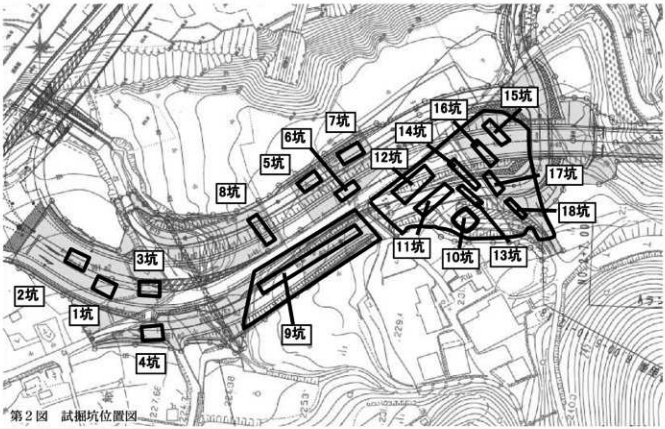
9 坑では、長い試掘坑を設定し深さ 0.25m 掘削したところ、現地表から約 0.25m までは耕作土、その下には地山の黄褐色土（粘性、しまりあり）が確認された。10 坑から 18 坑までの地形は、北西に向かって緩やかに傾斜する場所である。10 坑は、深さ 0.2m で掘削したところ、約 0.20m で地山の黄褐色土が認められ、11 坑は、深さ 0.20m、12 坑は、深さ 0.10m、13 坑は、深さ 0.20m、14 坑は、深さ 0.25m で同様の地山が確認された。

15、16 坑は、北東方向に傾斜する場所である。この地点は山林の中であったことから、立木の間に試掘坑を設定した。それぞれ地山までの深さは 0.20m である。17 坑では、深さ 0.20m、18 坑では、深さ 0.25m で掘削したところ、全て同様な地山が確認された。

各地点での調査結果から、粘性のあるしまりの強い黄褐色土がこの地区に広がっていると考えられること、深さが現地表から 0.3m 前後であることなどからこの層が遺構確認面と思われるが、遺構・遺物の発見はなかった。

よって、文化財保護上（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項　第 3 条）、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はないものと思われる。

第 1 図　中部横断自動車道建設事業位置図

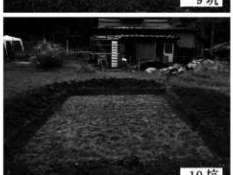

1坑
2坑
3坑
4坑
5坑
6坑
7坑
8坑
9坑
10坑
11坑
12坑
13坑
14坑
15坑
16坑
17坑
18坑

第２図　試掘坑位置図

1坑

9坑

3坑


10坑

8坑

15坑

8　山梨リニア実験線建設事業　試掘　（笛吹市御坂町竹居地内）

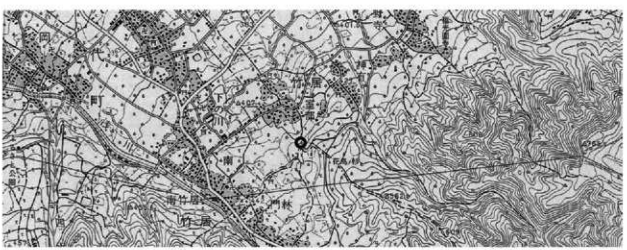
所在地	笛吹市御坂町竹居字横堰 4679 外	調査期間	平成 22 年 2 月 23 日
担当者	三田村美彦	調査面積	34㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、山梨リニア実験線を建設するにあたり、周辺に太鼓畑遺跡などの遺跡が存在することから、事前に埋蔵文化財の有無を確認するため試掘調査を実施した。

調査は山梨リニア実験線本線のⅠ区と、工事用道路となる 50 － 2 区の 2 地点となる。地形に合わせ、Ⅰ区では第 1 トレンチ（東西）、第 2 トレンチ（南北）2 本のトレンチを設定した。50 － 2 区では東西に 1 本のトレンチを設定した。トレンチは幅 1 m、長さ 7 ～ 15 mとなる（トレンチ設定図参照）。

調査の結果、1 区第 1 トレンチでは、表土下 50cm で、粘性の極めて強い褐色粘土層（地山）が検出された。Ⅰ区第 2 トレンチでは、表土下 40cm 下に粘性の極めて強い褐色粘土層（地山）が検出され、50 － 2 区では、表土下 40cm で粘性の極めて強い褐色粘土層（地山）が検出された。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されていない。よって、用地内における埋蔵文化財保護に係る対応は必要ないと判断される。

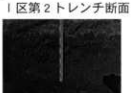


第 1 図　山梨リニア実験線建設事業位置図

第 2 図　トレンチ設定図

Ⅰ区第 1 トレンチ断面

Ⅰ区第 2 トレンチ断面



50-2 区トレンチ断面

9　山梨リニア実験線建設事業（G 地区）　試掘　（笛吹市八代町竹居地内）

所在地	笛吹市八代町竹居字南原 1058	調査期間	平成 22 年 3 月 18 日
担当者	吉岡弘樹・皆川賢司	調査面積	52㎡

調査経緯及び事業内容と結果

山梨リニア実験線は、平成 19 年度に試掘調査を実施し、平成 20 年度から本調査を実施している。試掘対象地（G 地区）は、標高約 400m の甲府盆地を鳥瞰できる浅い谷状底部の緩傾斜地に造成された東西に長い三角形に近い形状の平坦な畑地であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である南原遺跡（縄文・平安、散布地）の東側に隣接する位置にあたる。また、当地は南東側上方に花鳥山遺跡が、東側には柚木遺跡・三光遺跡といった縄文時代の遺跡が占地している。これらのことから、事前協議に基づき試掘調査が平成 22 年 3 月 18 日に実施されることとなった。

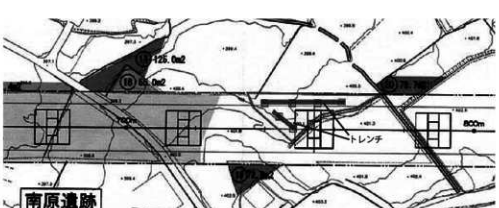
調査前の状況は、樹木類は事前に伐採されて更地化されていた。

第１図　山梨リニア実験線建設事業（G 地区）位置図

調査は、対象地の形状を考慮し路線に並行した約 25m と対象地の短辺に沿った約 10m の２本のトレンチを開口させた後、比較的条件の良い６ヶ所で土層堆積状況を確認することとした。掘削には、重機を用いその後、精査し土層断面の観察、遺構・遺物の有無等の確認を行い調査後に埋め戻しを行った。

その結果、６ヶ所の土層確認地点で、耕作土下に遺構や遺物が検出される層序は確認できず、大小の自然礫を多量に含む層が厚く存在していることが判明した。これは、当地が浅い谷状地形の底面にあるため、上方から流出した砂礫が堆積したものと、周囲の地形などから推定できるものである。

上記のとおり、各土層確認地点から遺構や遺物が確認されなかったことや地形などから判断して埋蔵文化財の対応は必要ないものと思われる。



第２図　トレンチ開口位置図

土層堆積状況

10　山梨リニア実験線（増用地№２地点工事用道路）建設事業　試掘《中丸遺跡》

所在地	笛吹市境川町小山字中丸 845 － 1 外地内	調査期間	平成 22 年 5 月 19 日
担当者	保坂和博、小澤美和子	調査面積	73㎡

調査経緯及び事業内容と結果

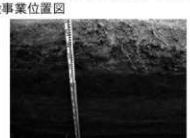
本事業は周知の埋蔵文化財包蔵地である中丸遺跡の範囲内における山梨リニア実験線建設に伴う工事用道路建設事業に伴い実施された。今回の試掘対象地の北側と市道 143 号を挟んで西側は、平成 20 年度に本調査が行われていることから平成 22 年 4 月 9 日の現地協議に基づき、2 本のトレンチ（T1 ～ T2）を設定し、遺構確認と土層観察を行った。

第 1 号トレンチ（長さ 35 m、幅 1.1m、深さ 0.7 ～ 1.34 m）は、表土層（1 層）下の深さ 0.1 ～ 0.6 mに暗褐色土層（4 層）、その下に黄褐色粘質土層（6 層）が確認された。第 2 号トレンチ（長さ 32 メートル、幅 1.1 m、深さ 0.6 ～ 1.45 m）は、表土層が削平され、埋土である黄褐色砂層（2 層）、黒褐色砂層（3 層）の下に 4 層（深さ 0.25 ～ 0.7 m）が確認された。その下は一部にぶい赤褐色土層（5 層）が入る箇所があるが、黄褐色粘質土層（6 層）、極暗褐色粘質土層（7 層）が確認された。

試掘調査の結果、遺物は文化層と考えられる 4 層から極小の土器片数点が出土したが磨耗し、西側台地上からの流れ込みの可能性がある。また、4 層は撹乱が著しいため遺存状態が悪く、遺構は確認することが出来なかった。4 層以外の層からは、遺物・遺構は確認されなかったことから、本試掘調査地点において遺跡はないと考えられるため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

第 1 図　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図

第 2 図　試掘トレンチ配置図



第 1 号トレンチ土層堆積状況

第 2 号トレンチ土層堆積状況

11　県庁舎耐震化等整備（第一南別館解体基礎撤去）事業　確認《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内1丁目6－1	調査期間	平成22年3月8～12日、15日
担当者	石井　明・依田幸浩	調査面積	83㎡

調査経緯及び事業内容と結果

第一南別館跡地は、かつて甲府城の楽屋曲輪および堀跡とその内側の土手状遺構が存在した地点にあたることから、これら埋蔵文化財の深さ、残存状況、発掘調査の必要性を確認するための試掘調査を実施した。

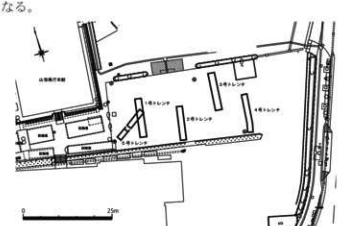
調査は、長さ約8.7～10.8m、幅1.5～2m、深さ約2.1～2.7m（最深部）のトレンチ（試掘溝）を5本設定し、重機による掘削後、人力による平面・断面の精査・観察・記録を行った。また、第一南別館跡地全域にわたり、基礎抜き取り後の攪乱層に大量の瓦片が混入している状況が認められたため、地表面およびトレンチ掘削土中を精査し、瓦片を採取した。

1号トレンチと5号トレンチでは、南から北および南西から北東にかけて傾斜して堆積する地層が確認され、これらは甲府城跡の堀の内側を巡っていた土手状遺構の下部にあたる可能性が考えられる。また、2号トレンチの南端部では、第一南別館建設当時のものと思われる側溝を検出した。

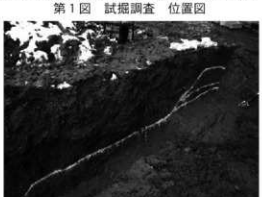
3号トレンチの北側と4号トレンチの中央部～北側では瓦片が出土した。3号トレンチで出土した瓦片は、焼成具合から江戸期のものと比定される。4号トレンチで出土した瓦片は、軒瓦の形状から築城期（1590年代）と江戸期のものが混在する状況にある。3号トレンチでは厚さ20cmほどの地層に点々と混入している状況から、江戸期の地盤造成に関係する遺物包含層の可能性が考えられる。4号トレンチでは瓦の混入範囲が厚く（最大約70cm）、量も多いことから、瓦溜の一部である可能性も考えられる。

試掘調査の結果、今回の調査対象地において甲府城跡関連の遺構が存在することが確認された。建物基礎による攪乱層の深度が地点によって異なり、断面観察や限定的な平面の調査では遺構の性格を捉えきれないため、工事着手前に試掘調査対象地全体の発掘調査が必要となる。

第1図　試掘調査　位置図



第2図　トレンチ位置図



第4トレンチ瓦片出土地点

第5トレンチ瓦片出土地点

12　県庁舎耐震化等整備（議事堂仮設庁舎建設）事業　確認　《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内１丁目６－１	調査期間	平成 22 年７月 10 ～ 17 日
担当者	野代幸和　長田隆志	調査面積	約 70㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、総務部管財課と学術文化財課との協議結果に基づき、同課から確認調査の依頼を受けて当センターで実施した。協議内容については、現況では駐車場・植樹帯となっている部分において調査を実施することを確認した。当該地点は周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡の楽屋曲輪北東部に位置しているおり、書院に付帯する長屋門などの存在が推定された。本事業は建設工事を前提とした確認調査であり、影響を受ける範囲内での基礎的データ収集対応に終始したため、遺構の面的な広がりについては把握することができなかった。過去の調査状況としては、西側の隣接地において立会調査を行ったところ、石列などが確認された経過がある。全体的な工程としては７月 10 日にバリケード・プレハブの設置を、12 日～ 16 日に実質的な調査を実施し、17 日にすべての撤収作業を行った。調査の結果、長屋門関連と推定される柱穴２基、書院に付帯する暗渠跡が確認された。遺構確認面までの掘削深度は最大 500mm 程度であり、表土からは戦災による焼けた瓦や戦時中の陶磁器類が複数発見された。

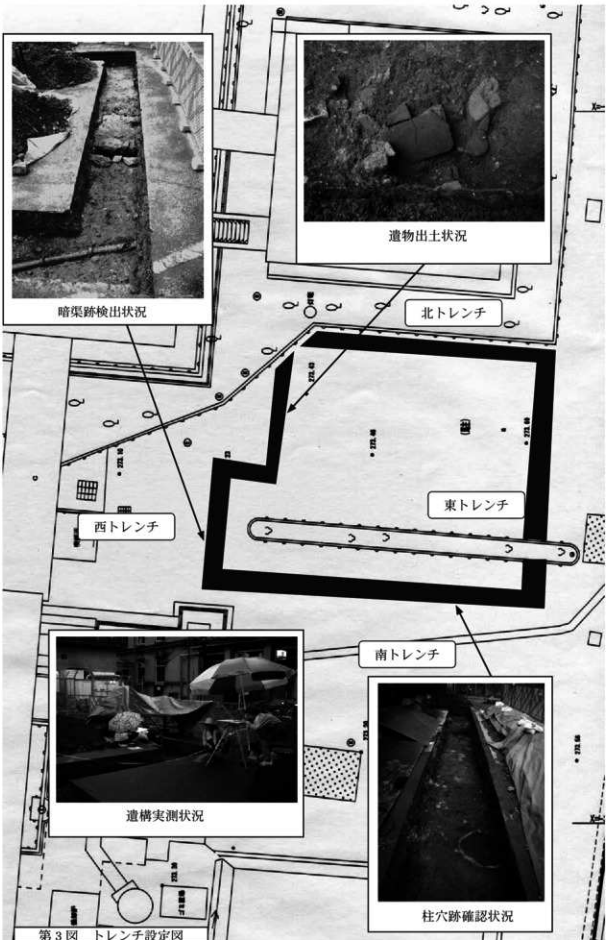
建設に際しては、遺構確認面から 30㎝以上の保護層を維持して施行することを指示した。

調査区全景

第１図　議事堂仮設庁舎建設事業位置図

第２図　甲府城相関図

調査状況



第３図　トレンチ設定図

13　原町農業高校前遺跡保存状況確認調査　試掘　《原町農業高校前遺跡》

所在地	北杜市長坂町塚川178	調査期間	平成22年6月1日～3日
担当者	高野玄明・野代幸和・長田隆志	調査面積	208㎡

調査経緯及び事業内容と結果

原町農業高校前遺跡は、峡北地区総合学科高校整備に伴い平成12～14年度に発掘調査が行われており、このうち平成13年度に行われた北杜高校グラウンド整備に伴う調査では、縄文時代中期の住居跡99軒、土坑400基等が確認され、縄文時代中期の大規模集落であることが判明している。

今回の対象地は、平成21年3月に高校敷地で文化財保護法に基づく協議がなされず多目的利用のため切土・盛土の造成工事がなされた。これを踏まえ、保存状況を確認するため、約3,500㎡内において、幅0.3～1.7m、長さ1.5～39.0m、深さ0.15～2.5mのトレンチを重機で掘削し、人力による清掃を行い、遺構や遺物の残存状況の確認をした。

○1号トレンチ

調査区西側に設定し、長さ39.0m、幅1.7m、深さ0.15m～2.5mを測る。掘削された断面には、耕作土（黒褐色・暗褐色土）、黒褐色土、淡黄褐色土（縄文包含層）、淡暗褐色土（遺構覆土）、黄褐色土（地山：ローム層）が確認された。トレンチ北側～中央付近においては、地山のローム層が0.4～1.3m程掘削されており、掘削断面で見る限り断面の上面に遺構の存在が確認でき、トレンチ内ではローム層を掘り込んだ遺構の最深部分が検出され、遺構に伴い土器片も確認された。しかし、トレンチ中程から南側にかけては盛土による造成ではあるものの、遺構や遺物の存在は確認できなかった。

○2号トレンチ

長さ36.0m、幅1.7m、深さ0.15～1.5mを測る。トレンチの中央付近に住居跡、溝状遺構、土坑等の遺構平面とともに遺物も検出された。遺構覆土は、淡褐色土、淡暗褐色土である。トレンチ北側は削平されており、南側も、1号トレンチ同様、遺構・遺物の存在は確認できなかった。

○3号トレンチ

長さ34.5m、幅1.5m、深さ0.15～1.25mを測る。2号トレンチ同様、トレンチ中央付近に土坑等（淡褐色土及び淡暗褐色）の遺構平面が検出され、遺物も確認された。

○4号トレンチ

2号・3号トレンチの間の南側に設定し、長さ9.0m、幅1.5m、深さ1.35mを測る。1～3号トレンチ同様、遺構や遺物は確認できなかった。

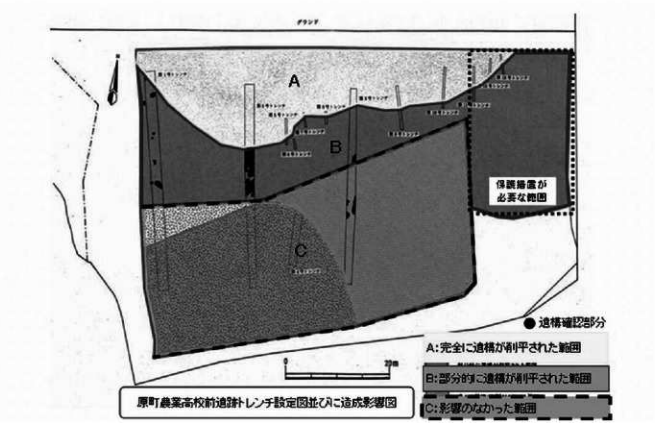
○5～13号トレンチは、掘削され砂を敷設した部分の遺構や遺物の確認を人力により行ない、東側の11～13号トレンチでは、地山が露出している状況であった。

調査の結果、第2図のように調査対象地の北側は、整地された砂直下にロームが見られ、ほとんど遺構や遺物は確認できなかった（完全に削平された箇所　第2図A 1,193㎡）。調査対象地のほぼ中央付近は、部分的に遺構や遺物が確認でき、埋蔵文化財が保存されている区域である（第2図B 702㎡）。　調査対象地南側においては、盛土がなされ、今回の造成工事には影響は無かった区域で、盛土下に遺構が保存されていることを確認した。（第2図C 1,611㎡）また、今回の造成とは関係ないが、東側部分（405㎡）において現状のままであれば支障ないが、何らかの形で使用する場合は保護措置を必要とする。

第1図　原町農業高校前遺跡保存状況確認調査位置図

原町農業高校前遺跡は、縄文時代の大規模集落として、県内でも有数な遺跡である。このため、校内や地元へ周知のための遺跡案内看板の設置や、今後の保存を含めた埋蔵文化財の取り扱いの協議を行なう必要がある。

なお、出土遺物については、文化財保護法に基づき、北杜警察署へ遺物の発見届けの提出を行ない、埋蔵文化財センターにおいて整理保管し活用する。



第２図　原町農業高校前遺跡トレンチ配置図並びに造成影響図

第３図　原町農業高校前遺跡と試掘調査範囲

調査区近景

試掘調査風景

14　西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業　試掘　《山梨市万力地内外》

所在地	山梨市万力地内、南地内、北地内、東地内	調査期間	平成 22 年 6 月 7 日～ 10 月 13 日
担当者	保坂和博・小澤美和子	調査面積	1,320㎡

調査経緯及び事業内容と結果

西関東連絡道路は埼玉県深谷市から山梨県甲府市にいたる約 110㎞の地域高規格道路であるが、そのうち甲府市桜井から山梨市東までの約 34㎞を「甲府山梨道路」として平成 9 年から整備が進められている。既に第Ⅰ期区間（甲府市桜井から山梨市万力）は整備がされ平成 18 年より暫定併用をしている。

今回の試掘調査は平成 20 年度から進められている第Ⅱ期区間（山梨市万力から山梨市東）の整備事業に伴うもので、取得された用地内約 60,000㎡を対象とし調査を行うこととなった。なお、第Ⅱ期区間の始点の直ぐ西は第Ⅰ期区間整備の際、古墳時代前期の遺物や平安時代の集落跡などが発見された足原田遺跡が存在する。

道路建設工事を進めるうえで、用地内が便宜上Ⅰ～Ⅴ工区と分けられており、試掘調査は工区ごとに行った。Ⅴ工区に関しては、用地未取得のため調査は実施していない。

調査方法は重機および人力による掘削と平面、土層観察による遺構・遺物確認である。その結果、上コブケ遺跡が範囲変更となり、新たに畑り田遺跡、膳棚遺跡が発見された。

以下、工区ごとに調査結果を報告する。

○Ⅰ工区

トレンチ 41 本を設定した。基本的な土層は、1 ～ 22 号トレンチまで耕作土－暗褐色土－褐色土－黒褐色土（鉄分多い）－黒褐色粘質土－オリーブ褐色砂が堆積しており、23 ～ 41 号トレンチは暗褐色土－褐色粘質土－褐色砂礫が堆積している。黒褐色土は粘性が強く、鉄分が多量に混在しており、調査対象地北側に広がる山から流れてくる地下水の影響を受けていると考えられる。かなり水が流れ込むらしく、1 ～ 5 号トレンチを設定した用地内には暗渠が多く見られた。

遺物は、全体で土器小片などが 40 点ほど出土したが、ほとんど磨耗しており、川の影響を受けて流れ込んできたものと考えられる。

Ⅰ工区の直ぐ西側は足原田遺跡が存在し、今回の試掘調査によりさらに東へ広がる可能性が考えられたが、遺構は確認できなかった。用地未取得のため調査が不可能だった部分があるが、その一部は今後試掘調査を行う予定であり、それ以外の用地に関しては調査結果から埋蔵文化財の対応は必要ないといえる。

○Ⅱ工区

トレンチ 49 本を設定した。兄川より西の 1 ～ 4 号トレンチは全て埋土である。5 ～ 9 号トレンチは表土－褐色土－暗褐色砂礫が堆積している。10 ～ 16 号トレンチで 0.3 ～ 0.8 mの間に堆積している暗褐色土～黒褐色粘粘質土から縄文土器片が出土しているが、特に 11、12 号トレンチは縄文土器片がそれぞれ 200 点近く出土している。また、12 号トレンチからピット 1 基、焼土跡、13 号トレンチから土坑 2 基、ピット 1 基、14 号トレンチから埋甕が 2 つ検出された。20 ～ 24 号トレンチは深さ 1 mほどで湧水し、その辺りは湿地帯であるが、22 ～ 43 号トレンチは 0.3 ～ 0.7 mの間に堆積している黄褐色粘質土あるいは暗褐色土から平安時代の土師器片などが出土している。遺構は 26、33、36、37、39、40 号トレンチから土坑が各 1 基、31 号トレンチから住居跡と考えられる遺構 1 基、38 号トレンチから土坑 3 基、ピット 2 基、41 号トレンチからピット 1 基が検出された。44 ～ 49 号トレンチは表土－褐色土－暗褐色あるいは黒褐色土（礫混じる）－褐色砂礫が堆積し、土師器片など出土しているが、これらのトレンチを設定した用地の直ぐ北側は崖であり、土層堆積状況からも流れ込んだものと考えられる。

以上の結果から、Ⅱ工区北西に近接する周知の埋蔵文化財包蔵地である上コブケ遺跡の範囲を変更することとなった。

○Ⅲ工区

トレンチ 44 本を設定した。基本的な土層は 1 ～ 14 号トレンチが表土－褐色土－黒褐色土－褐色砂礫－黒褐

色シルト。15～32号トレンチが表土－黒褐色土（小礫多い）－褐灰色土－黒褐色土－黒色粘質土－オリーブ褐色砂礫。33～44号トレンチが表土－暗褐色～黒褐色土－黒色粘質土－黒色シルトである。

34号トレンチから土坑1基が検出され、古墳時代の甕などの土器片が数十点と集中して出土した。他のトレンチからは遺構は確認されず、遺物は全体で数十点ほど出土したが、小さいもの、磨耗したものばかりで、流れ込んだものと考えられる。

遺構の確認は土坑1基だが、確認されたトレンチのさらに北側に遺跡が広がっている可能性があり、廻り田遺跡として新たに発見された。

○Ⅳ工区

トレンチ45本を設定した。基本的な土層は表土－褐色土－暗褐色土－黒褐色土－暗褐色土（砂礫混じる）－暗褐色粘質土が堆積している。

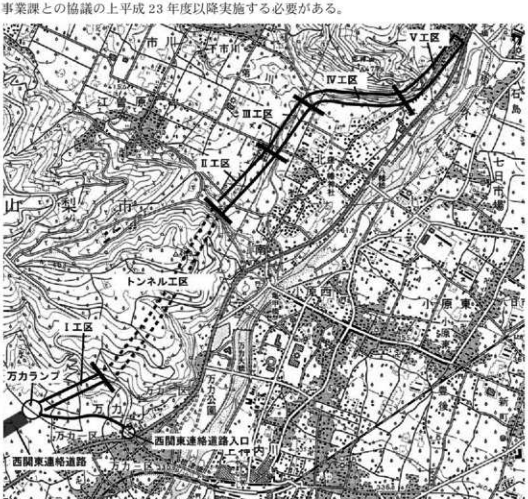
遺構は、12号トレンチから住居跡と考えられる遺構が1基、35、39号トレンチからカマド跡が各1基、40、42号トンチからは焼土跡が検出された。また、それらの遺構に伴い平安時代の土師器甕や坏などの土器片がまとまって出土している。これらは0.4～1.2mの間にある暗褐色土～黒褐色土から検出された。

遺構が検出された周辺のトレンチからもやはり土師器片などが出土している。

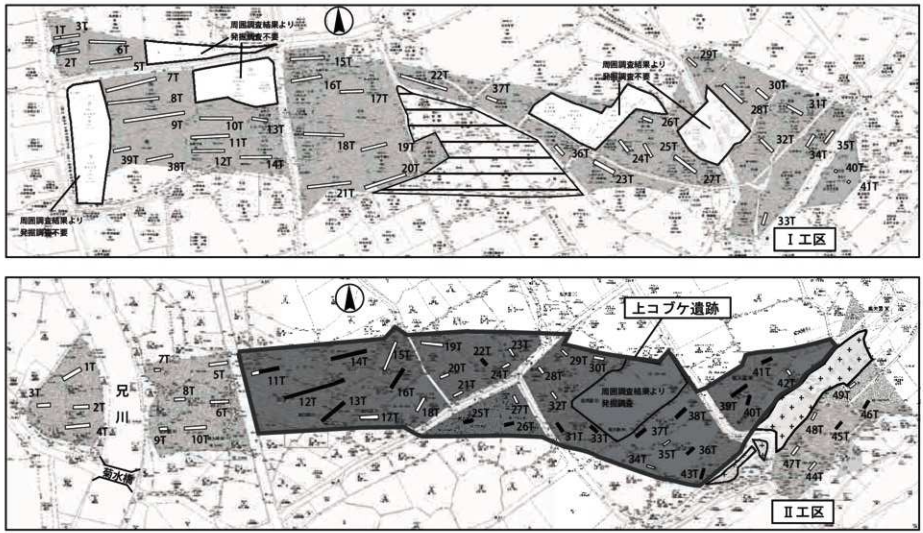
7、8、16～18、23号トレンチは0.5～1mで湧水し、用地内西半分の南縁は湿地帯である。

調査の結果、平安時代の遺跡である膳棚遺跡が発見された。

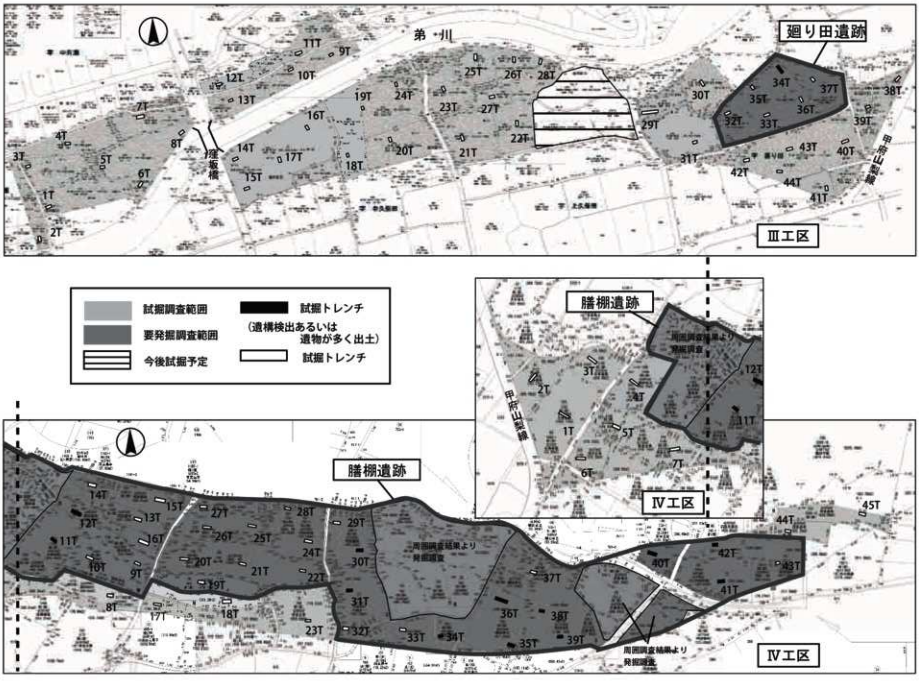
以上の結果、Ⅱ工区、Ⅲ工区、Ⅳ工区内において、遺構および遺物が確認できたことから、事前に発掘調査による記録保存などの保護措置が必要とされ、上コブケ遺跡（約13,000㎡）、廻り田遺跡（約2,000㎡）、膳棚遺跡（約20,700㎡）の本調査を実施する必要がある（第2、3図参照）なお、今後試掘調査を行う必要がある地点については、事業課との協議の上平成23年度以降実施する必要がある。



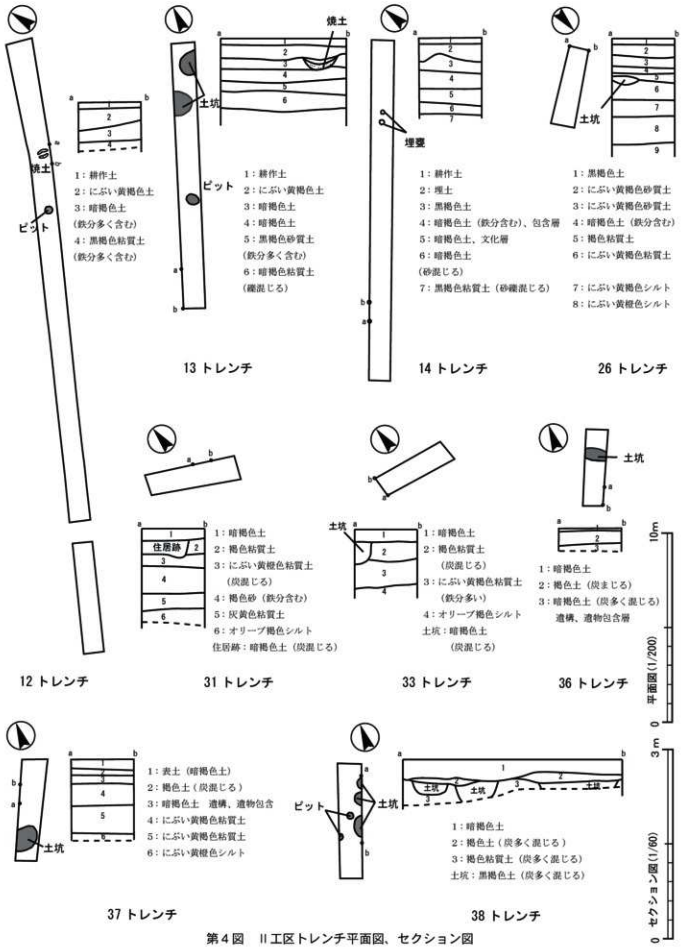
第1図　西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業位置図



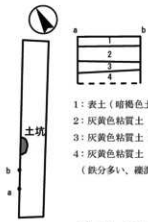
第２図　トレンチ配置図（Ⅰ工区、Ⅱ工区）（1/2000）



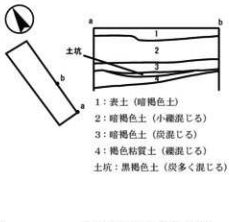
第３図　トレンチ配置図（Ⅲ工区、Ⅳ工区）（1/2000）



第４図　Ⅱ工区トレンチ平面図、セクション図

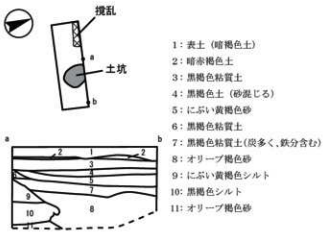


39 トレンチ（Ⅱ工区）

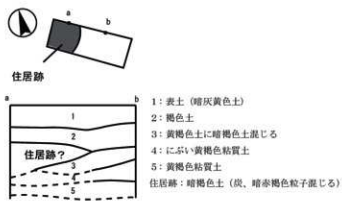


40 トレンチ（Ⅱ工区）

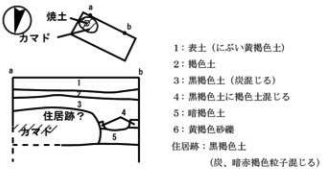
41 トレンチ（Ⅱ工区）



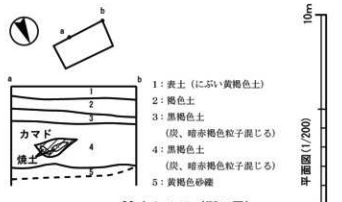
34 トレンチ（Ⅲ工区）



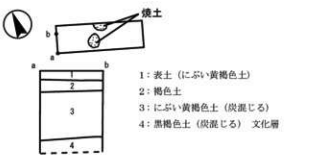
12 トレンチ（Ⅳ工区）



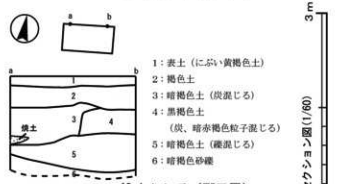
35 トレンチ（Ⅳ工区）



39 トレンチ（Ⅳ工区）



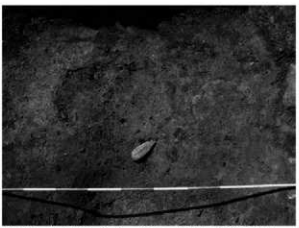
40 トレンチ（Ⅳ工区）



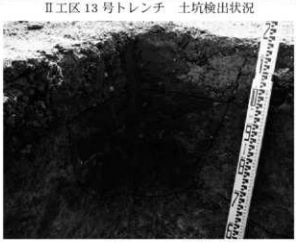
42 トレンチ（Ⅳ工区）

第５図　Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ工区トレンチ平面図、セクション図

Ⅱ工区 13 号トレンチ　土坑検出状況



Ⅱ工区 14 号トレンチ　埋甕、打製石斧検出状況



Ⅱ工区 33 号トレンチ　土坑検出状況

Ⅱ工区 38 号トレンチ　土坑検出状況

Ⅲ工区 34 号トレンチ　遺物出土状況

Ⅱ工区 31 号トレンチ　出土遺物

Ⅳ工区 35 号トレンチ　カマド検出状況

Ⅳ工区 39 号トレンチ　カマド検出状況

15　鉄塔移設事業　試掘《真篠城跡》

所在地	南巨摩郡南部町福士字真篠 1049 － 2 地内	調査期間	平成 22 年 6 月 15 日
担当者	出月洋文・小林健二	調査面積	1㎡

調査経緯及び事業内容と結果

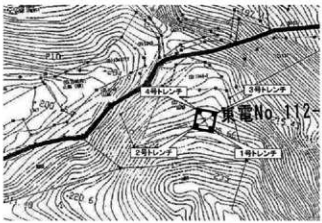
本事業は、東京電力による中部横断自動車道建設に伴う鉄塔移設工事である。

事業予定地一帯は、中世後半に築かれた甲斐と駿河の国境防衛のための山城であった県指定史跡真篠城跡の南西側に隣接する地域であることから、土層の堆積状況及び遺構・遺物の有無を把握するため、事業予定地内の鉄塔橋脚部分４箇所に 50㎝× 50㎝のトレンチを設定し、人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査地は、南から北へ下る竹林のやや急傾斜面にあり、土砂の崩落により斜面下側ではやや厚く腐食土が堆積していたが、いずれのトレンチにおいても、斜面上側のトレンチ（１号・２号）で深さ 25 ～ 30㎝、斜面下側のトレンチ（３号・４号）で深さ 35 ～ 50㎝において、それぞれ明褐色の地山層が検出された。この面において、造成した痕跡や遺構・遺物は全く確認されなかった。

以上の試掘調査の結果から、工事に支障はないものと判断される。

第１図　鉄塔移設事業位置図



第２図　試掘トレンチ位置図

１号トレンチ土層堆積状況

16　山梨県立農業大学校施設整備事業　試掘　（北杜市長坂町長坂上条地内）

所在地	北杜市長坂町長坂上条 3251 地内	調査期間	平成 22 年 6 月 22 日
担当者	高野玄明	調査面積	15㎡

調査経緯及び事業内容と結果

農業大学校施設整備事業については、酒呑場遺跡等に近接しているため、今後の埋蔵文化財保護の対応を図るため試掘調査を実施している。

今回の試掘調査は、6 月 3 日に現地協議を行ない、改修事業の内容により、試掘調査の必要な箇所（実習ほ場トイレ・大型機械収納庫）において実施することとなった。

なお、2009 年 2 月に仮設校舎、新営本館建設予定地の試掘調査を実施しているが、遺構や遺物は確認できていない。

今回の調査は、重機による掘削を行ない、断面観察等により、遺構や遺物の有無を確認した。

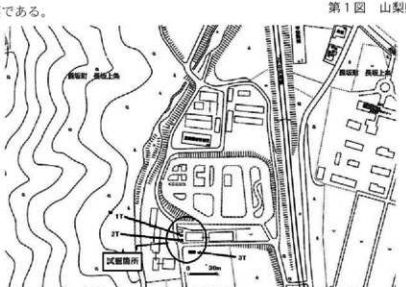
1 号・2 号トレンチは、実習ほ場トイレ予定地に設定し、幅 1.5 m、長さ 1.5 m、深さ 1.3 ～ 1.6 mを測る。確認された土層は、1 号・2 号ともに、Ⅰ層：黄褐色と灰黄色の混土、Ⅱ層：黒褐色とオリーブ褐色の混土、Ⅲ層：暗灰黄色土、Ⅳ層：黒褐色土、Ⅴ層：黄褐色土（ローム層）である。ローム層上面まで、攪乱層であり遺構・遺物の確認はできなかった。

3 号トレンチは、大型機械収納庫（新築）予定地に、幅 1.5 m、長さ 7.0 m、深さ 1.1 mのトレンチを設定し調査を実施した。確認された土層は、Ⅰ層：黄褐色と灰黄褐色の混土、Ⅱ層：黒褐色土、Ⅲ層：黄褐色土（ローム層）であり、1・2 号トレンチ同様ローム上面には、攪乱を受けた状況が伺え、既に開拓等による造成が行なわれた可能性がある。

上記のように 3 箇所のトレンチを設定し調査を行なったが、昨年度同様、いずれのトレンチからも遺構や遺物の確認には至らず、よって建設工事を実施するにあたり、支障はないものと判断される。

しかし、農業大学校については、酒呑場遺跡に隣接し、広大な面積を有することから、今後も注意が必要である。

第 1 図　山梨県立農業大学校施設整備事業位置図



第 2 図　試掘トレンチ配置図

試掘トレンチ掘削状況

試掘トレンチ土層堆積状況

17　酪農試験場場内整備（場内通路舗装）事業　試掘　《酒呑場遺跡》

所在地	北杜市長坂町長坂上条 621 － 2 地内	調査期間	平成 22 年 7 月 13 日
担当者	高野玄明	調査面積	16㎡

調査経緯及び事業内容と結果

酪農試験場場内の作業用通路の舗装工事が計画されたことから、過去に発掘調査が行なわれた箇所を除いて試掘調査を実施し、埋蔵文化財の状況（深さ等）を確認し、施工方法（掘削深度や盛土等）の参考資料とするため、試掘調査を行なうこととし、4 地点について、重機により掘削を行ない調査を実施した。

1 ～ 3 号は、幅 0.7 m、長さ 2.5 ～ 3.5 mのトレンチを設定し、調査を行なった。1 号トレンチでは深さ 0.2 m程で地山のローム層が見られ、ローム層にはカーボンが含まれている。2 号トレンチでも、同様に 0.2 mでロームが見られる。3 号トレンチは砕石層等の造成面下約 0.7 mでローム層が確認され、このローム層上面にもカーボン等が見られた。4 号トレンチは幅 0.7 m、長さ 3.0 mの規模で調査を行なった。地表下 1.2 mでローム層が確認できるが、土地の改変（土嚢の敷設等）が大規模に行なわれており、ローム層上面は既に削平されている可能性がある。

5 ～ 7 号トレンチは幅 0.7 m、長さ 2.0 ～ 3.0 mの規模で、調査を行なった。5 号トレンチでは、砕石層直下の地表下 0.2 mでローム層が確認されている。6・7 号トレンチでは、地表下 1.2 ～ 1.3 mでローム層が見られるが、ローム層上面は削平されている可能性がある。トレンチ 8 号は幅 0.7 m、長さ 3.0 mを測る。地表下の砕石層下 0.25 mでローム層が見られ、微量ではあるがカーボン等が見られた。

今回の試掘調査の結果、浅い部分では 0.2 m、深いところでは 1.3 mで地山であるローム層が確認されている。しかし、過去の発掘調査では、0.3 ～ 0.5 mでローム層上面にある黒色土（遺物包含層）が存在しているが、今回、全く見られないことから、既に、上面が削平されている可能性が強い。しかし、浅い部分でも黒色土はみられないものの、ローム層上面にはカーボンや少量ながら土器片がみられることから、舗装工事に関しては細心の注意が必要となる。

このため、浅い部分で確認されたローム層の保護のための盛土等、施工にあたっては、今回の試掘調査の結果を踏まえ学術文化財課等と協議を行うなかで施工するよう求めた。

第1図　酪農試験場場内整備（場内通路舗装工事）事業位置図

試掘トレンチ掘削状況

試掘トレンチ土層堆積状況

18　国道 411 号城東Ⅱ期バイパス建設事業　試掘　（甲府市朝気 2 丁目地内）

所在地	甲府市朝気 2 丁目 1,086 番地外	調査期間	平成 22 年 7 月 26 日
担当者	高野玄明	調査面積	88㎡

調査経緯及び事業内容と結果

城東バイパス建設事業については、供用開始されている甲府市国玉町地内についても、平成 3 年度に試掘調査を実施し、昨年 7 月には、甲府市砂田町内の供用開始交差点西側部分について、試掘調査を行っている。

今回の調査は、身延線西側朝気 2 丁目地内№ 113 ～ 116 について重機によりトレンチ掘削を行い、土層断面の観察により、遺構・遺物の確認等を行った。

試掘調査は、幅 1.3 m、長さ 8.5 ～ 10.0 m、深さ 1.5 m～ 1.9 mのトレンチを 7 本設定し、調査を行った。

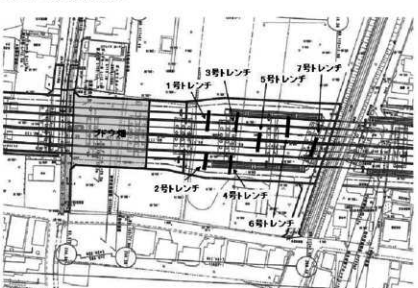
表土には 1 層：暗黄灰色粘質土（耕作土）、2 層：暗オリーブ褐色粘質土、3 層：灰黄褐色砂質土、4 層：黒色粘土（粘性強い）、5 層：浅黄褐色砂質土（中粒砂）で、この黒色粘土層が地表下約 0.8 ～ 1.0 mでみられ、厚さも 1.0 m以上堆積している。

トレンチ掘削の結果、いずれのトレンチからも砂層や粘土層の水平堆積で、試掘調査範囲からは、遺構や遺物の確認はできなかった。上記のように今回調査を行なった箇所について、砂層や粘土層が確認され、遺構や遺物の検出には至っていない。このため、遺跡の存在は無いものと判断され、工事に支障は無いものと考えられる。

この結果、昨年度実施した№ 103 ～ 109 と、今回の№ 113 ～ 116 にはさまれた№ 110 ～ 112 についても同様な地形を呈し、土層の堆積も想定できることから、埋蔵文化財について問題ないものと判断できる。

このような状況から、№ 116 から東側部分は遺跡の存在は無く問題ないが、№ 116 から西側はほとんど用地取得が済んでいることから、順次、試掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めていく必要がある。

第 1 図　国道 411 号城東 II 期バイパス建設事業位置図



第 2 図　試掘トレンチ配置図

試掘トレンチ完掘状況

試掘トレンチ土層堆積状況

19　国道 411 号城東Ⅱ期バイパス建設事業　試掘　（甲府市朝気地内）

所在地	甲府市朝気地内	調査期間	平成 22 年 12 月 6・7 日
担当者	吉岡弘樹・笹川賢司	調査面積	105㎡

調査経緯及び事業内容と結果

今回の城東バイパス建設に伴う試掘調査は、朝気一丁目から二丁目にかけての濁川に添った約 400m が対象であった。既に建設予定地の JR 身延線付近では平成 21 年 7 月と平成 22 年 7 月の 2 回に渡り試掘調査実施されている。

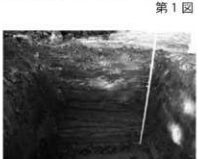
試掘対象地は、濁川によって形成された自然堤防上にあり、標高は約 256m である。北西方向には、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡（中近世、城下町）が広がりをみせている。また、当地の南側には過去に調査が実施されている朝気遺跡（縄文～中世、集落跡）が存在している。これらのことから、事前協議に基づき平成 22 年 12 月 6・7 日の両日で建設予定地の約 400m 分の試掘調査が実施されることとなった。

調査前の状況は、更地化されている部分と建物が残存している部分が混在し、さらに地下埋設物（水道管）が未撤去の箇所もあるとのことから、甲府市上下水道局工務部と現地での確認を事前に実施し、トレンチ開口地点を選定した。

調査は、上記の事柄を考慮し長方形のトレンチを開口させた後、土層堆積状況を確認することとした。掘削には、重機を用いその後、精査し土層断面の観察、遺構・遺物の有無等の確認を行い調査後に埋め戻しを行った。

その結果、９ヶ所の土層確認地点全てにおいて、土地造成時の盛り土などからなる表土層下に、粘質土が厚く堆積し湧水深度より深く継続して存在していることが観察された。しかしながら、この粘質土中より遺構や遺物が包含される層序は確認できなかった。

第１図　国道 411 号城東Ⅱ期バイパス建設事業位置図



土層堆積状況（対象地西側

土層堆積状況（対象地東側）

調査地の状況

20　都留バイパス建設事業　№12地点　試掘　（都留市井倉地内）

所在地	都留市字井倉259－1外	調査期間	平成22年7月28日
担当者	笠原みゆき	調査面積	52㎡

調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査対象地は、平成21年度に発掘調査された美通遺跡C区北東側に隣接している（第2図参照）。本地に、都留バイパス本線からでる雨水などを排水処理するため、仮設の水路を設置する計画があった。用地は、美通遺跡の末端にあたり、遺構の有無を確認する目的で、2本の試掘トレンチを水路敷設位置に合わせて設定し、重機による掘削・遺構確認をおこなった。

試掘調査の結果、トレンチ1は幅約2m・長さ約10mで、地表面から0.7mから掘り下げたところから、縄文土器の破片が出土し始めた。この確認面から拳大の礫が集積する部分が3カ所確認でき、集石遺構と考えられる。隣接する美通遺跡C区からも、縄文時代前期末頃の集石土坑が発見されており、同様の遺構と推定される。また、この集石遺構の北側には、幅1.5～2mの黒色土の帯が確認されている。トレンチ内で遺構の少ない西端にサブトレンチを入れた。しかし、ここでは遺構などの発見には至らなかった。トレンチ2は幅約2m・長さ約16mで、トレンチ1より浅い約0.5mのところから、拳大～掌大の礫が集積する集石遺構が2カ所、その南側では、礫が入る黒色土の帯が確認できた。また、その南側では、平安時代以降の土坑が2基確認できた。これらの遺構は、美通遺跡全体をとおして発見できるもので、試掘対象地も例外なく、平安時代以降の土坑の分布が広がっているものと考える。土坑や溝状遺構が美通遺跡全体から確認されている平安時代以降の遺構と推定されるため、縄文時代と平安時代以降の2時期の調査が必要と考えられる。

第1図　都留バイパス建設事業（美通遺跡）位置図

試掘トレンチ南から

第2図　トレンチ配置図

遺構検出状況

21　都留バイパス建設事業　No.１地点　試掘　《美通遺跡》

所在地	都留市字井倉 548 付近	調査期間	平成 22 年 10 月 13 日
担当者	笠原みゆき	調査面積	2.2㎡

調査経緯及び事業内容と結果

美通遺跡の試掘調査は、工事路線全体のうち、赤道など調査期間中に調査が出来なかった地点の立会をおこない、そこで、遺構・遺物が確認された地点を対象におこなった。調査地点の両側（A 区１・A 区 2-3）では、奈良から平安時代にかけての住居跡が８軒検出されており、両区に挟まれた調査地点でも、遺構が確認されることは予想できた。立会は路線内 11 ヶ所で行い、そのうち遺構・遺物の確認された地点は１箇所あった。

幅２m・長さ 10 mの範囲を重機による掘削をおこなった。調査の結果、住居跡の可能性ある竪穴状遺構が円形の土坑と切合う状態で確認された。竪穴状遺構の覆土中からは、遺物がほとんど検出できなかったが、焼土と炭化材の広がりが確認出来た。工事道路幅が対象であったため、その遺構の東壁寄り部分の調査であった。トレンチの壁面から、土師器坏の破片が確認されている。

第１図　都留バイパス建設事業（美通遺跡）位置図

No.１地点　調査前風景

竪穴状遺構土層断面

22　畜産課の課題に係る調査　試掘　（甲斐市菖蒲沢地内）

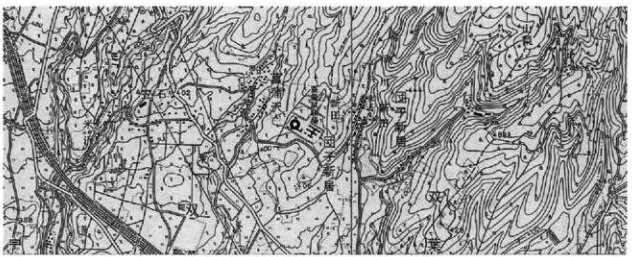
所在地	甲斐市菖蒲沢 3185 外	調査期間	平成 22 年 8 月 5 日・6 日
担当者	三田村美彦・石井　明	調査面積	150㎡

調査経緯及び事業内容と結果

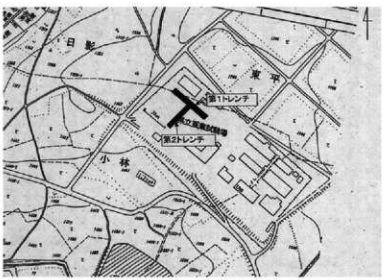
本事業は、口蹄疫発生時における殺処分蓄埋却用地を総合農業試験場跡地に確保するにあたり、周辺に東峰 A 遺跡などの遺跡が存在することから、事前に埋蔵文化財の有無を確認するため試掘調査を実施した。

調査は用地の地形に合わせ、東西（第 1）、南北（第 2）2 本のトレンチを設定した。トレンチは、南北とも長さ 50 m、幅 1.5 mとなる（トレンチ設定図参照）。

調査の結果、第 1 トレンチ東側では、表土下 20cm で、20cm大の礫を包含する粘性の極めて強い赤褐色粘土層（地山）が検出された。トレンチ中央付近では表土下に砕石を混入する撹乱層が 60cm 近く堆積していた。トレンチ西部は、トレンチ東部と同様の堆積が確認された。第 2 トレンチではその北部、中央、南部においていずれも、表土下に埋土と思われる 10 ～ 20cm 大の礫を混入する粘性の極めて強い土層が堆積し、遺構・遺物は確認されていない。よって、用地内における埋蔵文化財保護に係る対応は必要ないと判断される。



第 1 図　畜産課の課題に係る試掘　位置図



第 2 図　試掘トレンチ設定図

第 1 トレンチ中央断面（南より）

第 2 トレンチ南部断面（西より）

23　笛吹警察署金田駐在所建設事業　試掘　《橋立遺跡》

所在地	笛吹市一宮町竹原田字大日町 14 － 1	調査期間	平成 22 年 9 月 1 日
担当者	高野玄明	調査面積	13㎡

調査経緯及び事業内容と結果

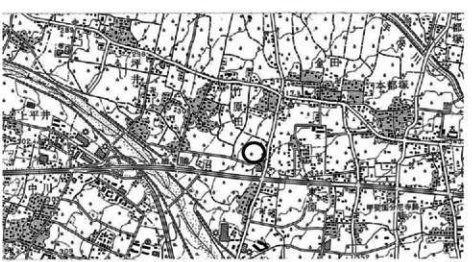
笛吹警察署金田駐在所の移転に伴い、移転先が埋蔵文化財包蔵地「橋立遺跡」にかかることから、学術文化財課と警察本部会計課との協議により、盛土を行なったあと、施工することとなった。しかし、事前に試掘調査を行うことによって遺構・遺物が確認される深さを調べる必要があるとし、今回の試掘調査を行うこととなった。試掘調査は、事業予定地内のほぼ中央に幅 1.0 m、長さ 13.4 m、深さ 0.7 ～ 1.0 mのトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の有無や土層の確認を行った。

調査の結果、確認された土層は、1 層:表土（黄褐色粘質土）、2 層:暗褐色粘質土に砂質土含む（しまり強い）、3 層：暗褐色砂礫層（10cm大の礫多く含む）である。

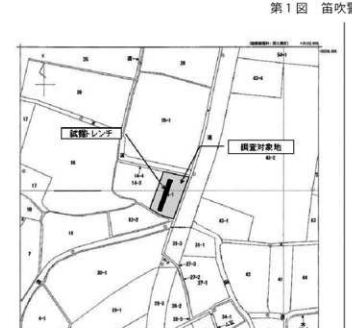
このうち、2 層の暗褐色粘質土中に、小破片の土器や、カーボン、焼土が含まれているのが確認された。

今回の試掘調査の結果、地表下 0.25 m～ 0.35 mで確認された 2 層目の暗褐色粘質土は安定しており、小破片であるが土器片やカーボン・焼土などが含まれていることが確認できた。

このため、駐在所の建設については、地表下 0.25 ～ 0.35 mで確認された 2 層目の暗褐色粘質土に掘削が及ばないよう、事業予定地内に盛土を施す等の措置を行ない、埋蔵文化財の保護につとめるようお願いした。



第 1 図　笛吹警察署金田駐在所建設事業位置図



第 2 図　試掘トレンチ配置図

試掘トレンチ土層堆積状況

試掘トレンチ完掘状況

24　県立笛吹高等学校建設事業　立会《石和高校周辺遺跡》

所在地	笛吹市石和町市部３地内	調査期間	平成 22 年１月４日
担当者	保坂和博	調査面積	144㎡

調査経緯及び事業内容と結果

今回の立会調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である石和高校周辺遺跡の範囲内における県立笛吹高等学校建設に先立つ北側駐輪場（長さ 36 m×幅４m）における下部解体（基礎コンクリート）撤去事業に伴い、遺構・遺物確認と土層観察を行った。

土層の堆積状況は、コンクリート基礎（約 20㎝）の下から約 1.3 mまで埋土が確認され、それ以下では隣接地で過去に行われた立会調査地点と同様に自然堆積層となる砂礫に湧水を伴う状況が推測された。

立会調査の結果、建設時に表土下約 1.3 mの自然砂礫層まで掘り下げた後に埋土された状況が見られ、遺構や遺物は全く遺存せず、遺跡はないと考えられたため、今回の立会地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。

なお、平成 21 年 12 月 24 日に行われた総務部営繕課、教育委員会学校施設課、学術文化財課と当センターとの協議に基づき、本館、中館、屋内運動場建設で新たに掘削される場所については、改めて試掘調査を実施する必要があることが確認された。

第１図　県立笛吹高等学校建設事業位置図

第２図　立会調査位置図

コンクリート基礎

コンクリート基礎断面

埋土確認状況１

埋土確認状況２

25　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（日本庭園改修）事業　立会　（甲府市下曽根町地内）

所在地	甲府市下曽根町地内（風土記の丘・曽根丘陵公園内）	調査期間	平成 22 年 1 月 14 日・21 日・22 日
担当者	高野玄明・田口明子	調査面積	140㎡

調査経緯及び事業内容と結果

曽根丘陵公園内にある日本庭園（池）の改修工事が計画され、工事内容を踏まえ立会調査を実施した。

工事は、池の西側部分を溝状に南北方向に国道沿いまで幅 3.0 m、深さ 0.9 ～ 2.7 m掘削するものである。

この状況を踏まえ、施工箇所の掘削及び掘削終了時に、立会調査を実施することとした。また、池の北側部分及び南側の樹木の移植のための掘削箇所についても、施工前に立会調査を実施した。

【南・北側樹木移植掘削箇所】

南側はサツキツツジ・クヌギ等、北側はヤマボウシ等の移植のため、掘削時に立会調査を実施した。

サツキ・ツツジについては、株毎にすきとるため、ほとんど表土の掘削のみであり問題なかった。また、樹高が高いものについては、根周りを深さ 1.0 m程掘削したが、掘削箇所はいずれも盛り土の範囲であり、埋蔵文化財への影響は見られなかった。

【北側国道沿い掘削箇所】

現地表から 2.0 ～ 2.7 mまで掘削をおこなった。この付近については樹木の掘削箇所同様に盛土が 2.0 m以上見られ、その下部はオリーブ黒色シルト層が堆積している。

【池掘削箇所】

日本庭園の北側、国道沿いから掘削を行い、池の底部はコンクリート厚さ 0.2 m、その下 0.2 mが砕石層、砕石層下部は盛土や自然堆積の黒色シルト層が見られるなど、遺構や遺物の確認はされなかった。上記のように、掘削時の立会の結果、日本庭園改修工事に関し、掘削深度が最大で 2.7 m程を掘削したが、盛り土の範囲内であり、下層は自然堆積層のオリーブ黒色シルト層であることから、周辺が湿地帯であったことが窺えるなど、今回の立会調査に関しては全く問題は見られなかった。

第1図　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（日本庭園改修）事業位置図

第２図　立会調査位置図

土層断面

26　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（バンガロー基礎撤去）事業　立会　（甲府市下向山地内）

所在地	甲府市下向山地内（風土記の丘・曽根丘陵公園内）	調査期間	平成 22 年 3 月 29 日
担当者	高野玄明	調査面積	6.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

風土記の丘・曽根丘陵公園内にあるバンガロー解体については、利用者の減少から解体を余儀なくされ、毎年数棟ずつ行われている。

今年度については 2 棟の解体を行うことになり（9・13 号棟）、基礎撤去に伴い立会調査を行うことになった。立会調査は、9 号棟について基礎撤去を行ったが、地表にはコンクリート支柱の独立基礎のようにも見られるが、地中は独立基礎をつなぐように布基礎による工法がとられている。

深さは、地表より 1.0 mに及んでおり、地表から 0.65m までは、暗褐色粘質土に小礫が含まれており、その下部には暗褐色粘質土がみられる。

バンガローの立地について、急斜面に立地するなど立会調査の結果、遺物や遺構の検出はできなかった。

以上のように今回のバンガロー基礎撤去に伴う立会調査において、遺構や遺物の検出にはいたらず、埋蔵文化財に関し問題はみられなかった。

第 1 図　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（バンガロー基礎撤去）事業位置図

第 2 図　基礎撤去立会位置図

基礎撤去掘前状況

土層断面確認状況

27　警察署等整備事業（運転免許課都留分室他下水道接続工事）　立会（都留市下谷地内）

所在地	都留市下谷３－２－18 外	調査期間	平成 22 年１月 18 日、２月 23 日
担当者	依田幸浩	調査面積	3.6㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本調査は、運転免許課都留分室 他の下水道接続工事に伴う立会調査である。工事地点は、西側の桂川と東側の御正体山の山裾に挟まれた日当たりのよい平地で、周辺の同地形上に縄文時代の遺跡である徳重遺跡や小倉遺跡が存在することから立会調査を実施することとなった。

調査は、２地点（A・B地点）で２日間にわたり行った。A地点は大月警察署都留分庁舎から西側の市道に接続する道路部分である。掘削範囲は、長さ約 25 m、幅約 60㎝、深さ約１～２mで、西端と東端部分は既設工作物のための攪乱層となる。また、現地表下約 1.4 m地点からは溶岩の岩盤となる。両端の攪乱層を除き、現地表下約 50 ～ 90㎝の間に赤色スコリアを含む比較的安定した黒褐色土層が堆積していたが、遺構および遺物は一切確認されなかった。

第１図　立会調査　位置図

B地点は都留分庁舎宿舎から東側の植え込み部分で、掘削範囲は、長さ約９m、幅約 60㎝、深さ約１mである。B地点でも掘削範囲の東端から中央のフェンス部分にかけて既設工作物による攪乱層がみとめられた。攪乱層を除いた部分では、現地表下約 55 ～ 75㎝の間に赤色スコリアを含む黒褐色土層、その下に赤色スコリアと黒褐色土ブロックを含む褐色土層が堆積していたが、遺構および遺物は一切確認されなかった。

A・B両地点ともに遺構や遺物が一切確認されなかったことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

A地点掘削状況

B地点土層確認状況

28　県立中央病院北口院長宿舎解体事業　立会　《武田城下町遺跡・甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市北口3丁目83番	調査期間	平成22年1月25～27日
担当者	吉岡弘樹・皆川賢司	調査面積	70㎡

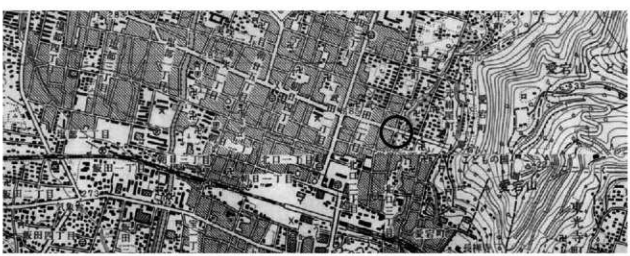
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、当該地にある中央病院北口院長宿舎を約70cmの深度に敷設してある基礎コンクリートも含め全て解体撤去し更地化するものである。

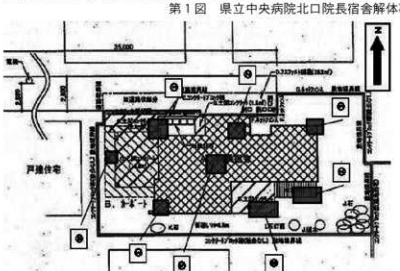
当該地は中世では武田城下町遺跡の南側、近世においては甲府城下町遺跡の北縁部にあたり、この周知の埋蔵文化財包蔵地である二遺跡が重複する位置にある。

立会調査は、約243㎡という狭い面積であることから対象地を二分し西側より、基礎コンクリート除去後、比較的良好に土層観察ができる箇所8地点を精査し、その土層断面を観察した。

その結果、当該地では、宿舎基礎の下に宿舎建設以前に解体された建物の廃棄物が厚く埋設されている箇所がほとんどで、遺構・遺物の検出は無く、わずかに残されていた良好に土層観察が行えた箇所においても遺構・遺物の確認はできなかった。



第1図　県立中央病院北口院長宿舎解体事業位置図



第2図　試掘トレンチ配置図

第③地点土層堆積状況

29　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業　立会 《柚木遺跡》

所在地	笛吹市八代町竹居字柚ノ木1214　外	調査期間	平成22年2月12日
担当者	吉岡弘樹	調査面積	8㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、山梨リニア実験線建設に伴う工事用仮設道路敷設により畑地を最大深度約1.5ｍの傾斜をもって掘削し、傾斜を付けて既存の隣接する道路に接続するものである。

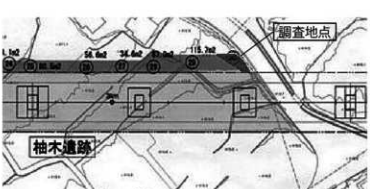
当地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である柚木遺跡（縄文・平安、散布地）の東端部に位置しているため、事前協議に基づき立会調査が平成22年2月12日（金）に実施されることとなった。

当地は南側上方に花鳥山遺跡が、また、南東側に隣接して三光遺跡といった全国的にも有名な縄文時代の遺跡が存在する位置にあたる。

立会調査対象地は、リニア実験線本線に隣接した位置にあり、甲府盆地底部に向かう急傾斜地に直角になるように平坦に造成された畑地の一部分の約30㎡を東西に長く利用するものであることから、東西に平行となるトレンチを2カ所に開口し土層堆積状況を確認することとした。

その結果、東側に設置した第1号トレンチでは、約40cmの耕作土層直下、暗茶褐色土層（約20cm）・黄褐色粘質土層（約50cm）・黄褐色砂礫層（約40cm）・明黄褐色土層と不安定な層序が重なり遺構・遺物ともに検出はできなかった。また、第2号トレンチでは、約40～50cmの耕作土下に第1号トレンチと同層の暗茶褐色土層（約20～30cm）が確認できた。さらに、その下層には粘性・しまりともにやや強く焼土・炭化粒子をやや含む安定した層序である暗茶褐色土層（25～30 cm）が観察できたが遺物などの検出には至らなかった。

第1図　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図



第2図　調査地位置図

土層堆積状況

30　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業　立会（笛吹市御坂町竹居地内、八代町竹居地内）

所在地	借地№33地点：笛吹市御坂町竹居2322－4 借地№48地点：笛吹市御坂町竹居2320－1 D地点：笛吹市八代町竹居字南原1,593	調査期間	平成22年4月8日、19日
担当者	保坂和博・小澤美和子	調査面積	借地№33地点：22㎡ 借地№48地点：25㎡ D地点：40㎡

調査経緯及び事業内容と結果

【借地№33、№48地点】

両地点は、第2図に示したように周知の埋蔵文化財包蔵地の三光遺跡に近接し、№33では0.9m、№48では0.3～2mの掘削に及ぶことから平成22年4月8日の立会調査により遺構、遺物確認と土層観察を行った。

№48地点では、長さ約16.5m、幅約1.5mで第1号トレンチ（T1）を入れたところ、深さ0.34～0.47mで遺物包含層と思われる黒褐色土層がみられ、その下に地山と考えられる黄褐色砂礫層がみられた。№33地点では、長さ約17m、幅約1.3m、深さ約0.8～1.6mの第2号トレンチ（T2）を入れたところ、深さ1～1.6mで遺物包含層と思われる暗褐色～黒褐色土層、その下に地山と考えられる黄褐色土層がみられた。T1とT2の土層堆積状況から№48地点は、耕作によってもとの地形がかなり削られていると考えられた。

立会調査の結果、両地点ともに遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと判断されたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

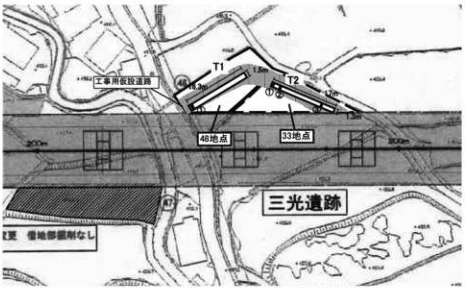
【D地点】

本地点は、実験線本線の橋脚の建設にあたり、平成21年度に試掘調査を行ったところ、本線センターライン南側、橋脚建設箇所に近接する箇所で古墳時代後期の須恵器を検出し、当該期の遺跡が建設対象地の南側に想定され、工事時に立会を実施することが確認されていたことから、平成22年4月19日に橋脚建設箇所（13m×13m）においてトレンチを3カ所設定し、重機による掘り下げを行いながら、遺構・遺物確認と土層観察を行った。

各トレンチにおける土層の堆積状況は同様であり、地表から0.2～0.5mほどは耕作土（1層）、その下は、黒褐色土層（2層：厚さ約0.3cm、1cm～10cm大の礫を多量に含む）、黒褐色砂礫層（3層：厚さ約0.2m、4層の漸位層：5cm～50cm大の礫を多量に含む）、さらに褐色砂礫層（4層：厚さ0.5m以上、1～20cm大の礫を多量に含む）が確認された。

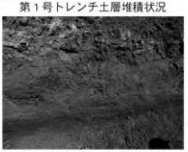
立会調査の結果、表土層以下は礫を多量に含む二次堆積層となり遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

第1図　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図

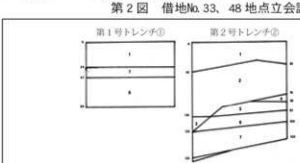


第２図　借地No.33、48 地点立会調査位置図

第１号トレンチ土層堆積状況



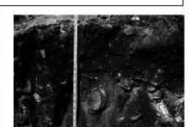
第２号トレンチ土層堆積状況



1：暗褐色土層　粘性あり、しまり無し
2：暗褐色土層　粘性あり、しまりあり
3：暗褐色土層　粘性強、しまり良
4：暗褐色土層　粘性強、しまり強
5：黒褐色土層　粘性強、しまり強
6：暗褐色土層　粘性非常に強、しまり強
7：黒褐色土層　粘性強、しまり強
8：黄褐色土層　粘性あり、しまり非常に強

第３図　借地No.33、48 地点土層図

第４図　Ｄ地点立会調査位置図



第１号トレンチ土層堆積状況

第３号トレンチ土層堆積状況

1. 黒褐色土層　粘性ややあり、しまりあり
2. 黒褐色土層　粘性ややあり、しまりやや弱く
3. 黒褐色砂礫層　粘性・しまり欠ける
4. 褐色砂礫層　粘性・しまり欠ける

第５図　Ｄ地点土層図

31　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業　立会《御坂中丸遺跡》

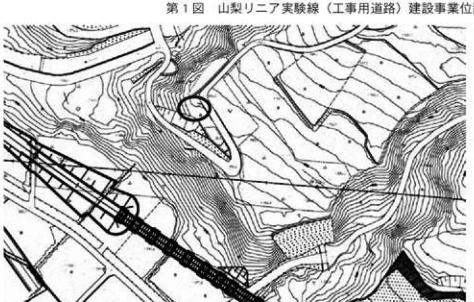
所在地	笛吹市御坂町上黒駒 6209 － 2 地内	調査期間	平成 22 年 4 月 19 日
担当者	小林健二	調査面積	10㎡

調査経緯及び事業内容と結果

平成 22 年 4 月 9 日に行われた今年度の埋蔵文化財調査にかかる現地協議において、金川工区M地点で工事用道路建設に伴い掘削が行われることが確認されたが、この地点は平成 21 年度に調査が行われた御坂中丸遺跡の南西端にあたり、農道との間に石造物が 2 基残されており、斜面際の平坦部を掘削の際には立会調査を行うことが了解されたことから、これを受け調査を実施した。

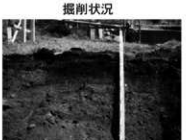
調査は、安全対策のため墓石の周囲に柵を設置した後、重機により深さ 1 mで、長さ約 5 m、幅 2 mにわたって掘削した。その結果、表土を除去するとすぐに花崗岩を含む砂質土層となり、遺構・遺物は全く確認できず、立会は問題なく終了した。実際には墓石より約 2 m南側を掘削したため影響を及ぼすこともなく、工事を進めても支障はない旨を報告した。

第 1 図　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図



第 2 図　調査地点位置図

掘削状況



土層堆積状況

32　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業　立会《中丸遺跡》

所在地	笛吹市境川町小山字中丸 844 － 1 地内	調査期間	平成 22 年 5 月 19 日
担当者	保坂和博	調査面積	10㎡

調査経緯及び事業内容と結果

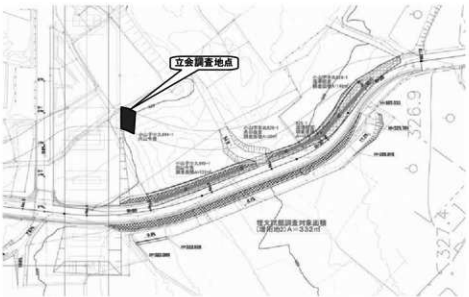
本事業は周知の埋蔵文化財包蔵地である中丸遺跡の範囲内における山梨リニア実験線建設に伴う工事用道路建設事業に伴い実施された。

今回の立会調査は、平成 22 年 5 月 14 日に行われた鉄道・運輸機構と学術文化財課および当センターとの現地協議の結果に基づき、北側に隣接して平成 20 年度に行われた本調査の際に縄文時代中期の土坑などを検出した遺構確認面の深さまで切土される地点（長さ約 5 m、幅約 2 m、深さ約 1.8m）を対象に、5 月 19 日に行う増用地№ 2 地点の試掘調査と合わせて遺構確認と土層観察を行った。

立会調査地点における土層堆積状況は、盛土層（1 層：オリーブ褐色土層 1.2 m）、盛土層（2 層：極暗褐色土層 0.55 m）、さらに自然堆積層（3 層：黒褐色土層 0.4 m、4 層：暗褐色土層 0.4 m）が確認された。

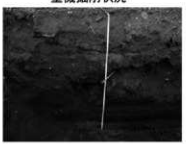
立会調査の結果、平成 20 年度本調査時の遺構確認面となる層位（3 ～ 4 層）を検出したが、遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

第 1 図　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図



第 2 図　立会調査位置図

重機掘削状況



土層堆積状況

33　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業　立会（笛吹市御坂町上黒駒地内）

所在地	笛吹市御坂町上黒駒 6074－1外地内	調査期間	平成 22 年 8 月 23 日
担当者	小林健二	調査面積	25㎡

調査経緯及び事業内容と結果

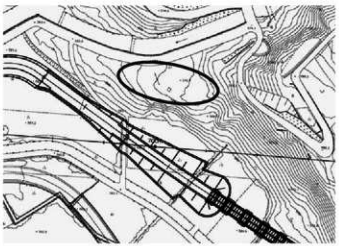
本事業は、山梨リニア実験線建設に伴う工事用道路建設工事である。

平成 22 年 4 月 9 日に行われた今年度の埋蔵文化財調査にかかる現地協議において、金川工区K地点で工事用道路が建設されることが確認された。現在、この地点の平坦部の東端に祠が残されているが、これに先行する建物跡があるかどうか、掘削の際には立会調査を行うことが了解されたことから、これを受け調査を実施した。

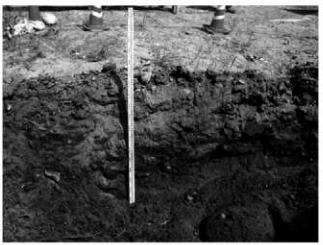
立会調査は、重機により深さ 1 mで、長さ 5 m、幅 5 mの掘削をお願いし、土層の観察及び遺構・遺物の確認を行った。

調査の結果、表土を除去するとすぐに花崗岩を含む砂質土層となり、遺構・遺物は全く確認できず、工事を進めても支障はない旨を報告した。

第 1 図　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図



第 2 図　調査地点位置図



土層堆積状況

34　山梨リニア実験線（黒駒トンネル終点側工事用道路）建設事業　立会（笛吹市御坂町上黒駒地内）

所在地	笛吹市御坂町上黒駒地内	調査期間	平成 22 年 12 月 15 日
担当者	保坂和博	調査面積	20㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、山梨リニア実験線本線と上黒駒バイパスを結ぶ工事用道路を建設する工事で、地形の傾斜に合わせた切土と盛土による掘削計画である。

立会調査は、切土される第１地点（長さ約４m、幅約３m、深さ約1.2m）と第２地点（長さ約４m、幅約２m、深さ約1.5m）において遺構確認と土層観察を行った。

両地点における土層堆積状況は、地表から耕作土層（１～２層）、旧水田層（３層：暗褐色土層、４層：褐色土層）、さらに自然堆積層（５層：オリーブ褐色砂層、６層：褐色粘質土層、７層：オリーブ褐色砂層、８層：黒色粘質土層、９層：黒褐色粘質土層）が確認された。

立会調査の結果、旧水田層以下は自然堆積層となり、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えないと認められる。

第１図　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図

第２図　立会調査位置図

第１地点土層堆積状況

第２地点土層堆積状況

35　県庁舎耐震化等整備（第一南別館解体基礎撤去）事業　立会　《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内1丁目6－1（県庁構内）	調査期間	平成22年3月1日・4日
担当者	高野玄明	調査面積	50㎡

調査経緯及び事業内容と結果

県庁耐震化等整備（山梨県防災新館建設）に伴い、県庁舎第一南別館が取り壊されることになり、県庁構内が旧甲府城内にあたるため、基礎撤去時に立会調査を行うことになった。

第一南別館は1930（昭和5）年3月に竣工し、山梨県立図書館として開館し、その後、県庁第一南別館として使用されてきた。幾何学的な文様を取り入れた「アールデコ」と呼ばれる建築様式が用いられた貴重な建物であることから、取り壊す前に建物の記録保存を行い、調査報告書が刊行されている。

○平成22年3月1日

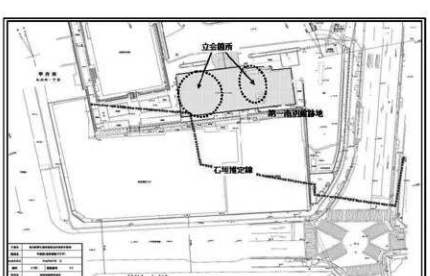
第一南別館西側において基礎撤去の状況を確認した。基礎は地表下約2.7ｍ程まで及んでおり、撤去後の基礎最深部には黄褐色の地山と思われる層を確認した。また、建物南西隅に石垣らしい痕跡が確認されたが狭小であったため不明瞭である。

○平成22年3月4日

第一南別館東側の新たに増築された部分であり、基礎も浅く旧甲府城の造成面なのかは不明であるが、暗褐色粘質土が確認されている。

基礎撤去終了後の第一南別館跡地については、試掘調査を実施することとなっている。

第１図　県庁舎耐震化整備（第一南別館解体基礎撤去）事業位置図



第２図　立会調査位置図

基礎撤去状況

基礎下部確認状況

36　県庁舎耐震化等整備（本館南側駐輪場解体）事業　立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内1丁目6－1(県庁構内)	調査期間	平成22年8月5・6日
担当者	野代幸和・長田隆志	調査面積	280㎡

調査経緯及び事業内容と結果

立会い調査地点は、過去の調査実績から現況地盤下およそ2m付近まで遺構が認められないことを確認しているが、絵図との照合で堀、石垣、土塁等の遺構が存在している可能性が高いことから、学術文化財課ならびに管財課との事前協議に基づき、埋蔵文化財の確認調査を実施した。

調査は駐輪場部分のコンクリート土間と支柱基礎、通路部分のアスファルトの撤去時に埋蔵文化財の有無について確認を行った。掘削深度はコンクリート土間部分で300 mm、支柱基礎部分で500 mm、通路のアスファルト部分で50 mmであり、遺構については検出されなかった。ただし、盛土部分からは瓦などの遺物が混入していたため慎重に対応した。基礎等の除去作業時に、駐輪場とは別のコンクリート基礎などが土間の下部から認められたが、これらについては、営繕課と確認し、法面保護工時に対応することとなった。

第1図　本館南側駐輪場解体事業位置図

第2図　立会調査地点

コンクリート土間撤去状況

土間下基礎確認状況

37　国道 141 号（駒井地点）改築事業　立会 《駒井砂宮神遺跡》

所在地	韮崎市駒井字砂宮神 2780 －1外	調査期間	平成 22 年 4 月 26 日、5 月 18 日
担当者	保坂和博・小澤美和子	調査面積	25㎡

調査経緯及び事業内容と結果

国道 141 号韮崎市駒井の地点を挟む宅地 2 箇所（母屋側、小屋側）に道路を拡幅し新たに右折レーンを建設するにあたり、該当箇所が周知の遺跡である駒井砂宮神遺跡にかかり、掘削がどちらも深いところで 1 mに及ぶため立会調査を実施し、遺構、遺物確認と土層観察を行った。なお、当日は掘削の段階に至っておらず、工事の概要を聞いたうえでトレンチを設定した。

第 1 図　国道 141 号改築事業位置図

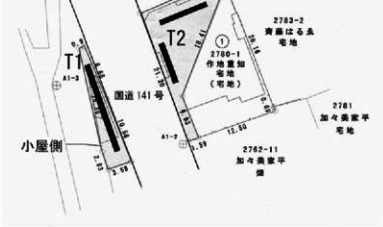
○平成 22 年 4 月 26 日　小屋側立会

1 トレンチ（T1）（長さ 15.5 m、幅 0.8 m）を設定し、3 箇所で土層観察を行った。浅い箇所で 35㎝、深い箇所で 75㎝までは暗褐色砂質土層の埋土、その下は礫が混在するシルト層、深さ 90㎝から下は 20㎝大の大きな礫が堆積し、塩川の影響をかなり受けていると考えられる。遺構、遺物ともに発見されなかった。

○平成 22 年 5 月 18 日　母屋側立会

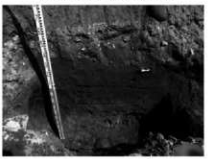
2 トレンチ（T2）（長さ 7m、幅 0.8 m）、3 トレンチ（T3）（長さ 8.6 m、幅 0.8 m）の 2 本を設定した。両トレンチとも同じ土層堆積状況であるが、小屋側の 1 トレンチと異なり、地表から 55㎝のところは埋土で、ゴミ、礫、江戸時代以降の磁器、陶器片が混在していた。その下の 55 ～ 90 ㎝のところに黒褐色土層が堆積し、この層は文化層と考えられるが、遺構、遺物は皆無であった。さらに下は砂質土層、シルト層が続き、深さ 135㎝の所で暗灰黄砂礫層が堆積していた。

結果として小屋側、母屋側とも遺構、遺物の確認は出来なかった。このため、141 号駒井地点の改築にあたって工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第 2 図　トレンチ配置図

1 トレンチ土層堆積状況


3 トレンチ土層堆積状況

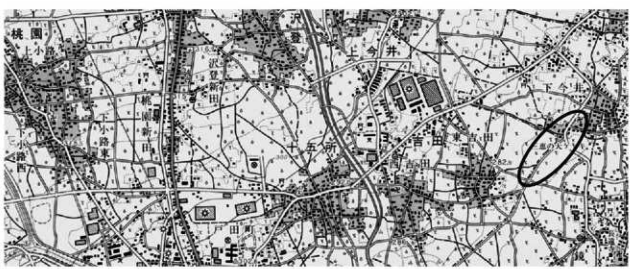
38　釜無川流域下水道敷設事業　立会《今井前第１・第２・第３遺跡》

所在地	南アルプス市地寺部地内	調査期間	平成 22 年 5 月 10 日～ 6 月 9 日
担当者	小林健二	調査面積	15㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、昨年度南アルプス市鏡中條地内において実施された下水道管敷設工事の継続事業であるが、この一帯が周知の埋蔵文化財包蔵地である今井前第１・第２・第３遺跡に接していることから、工事期間中下水道管埋設部分の深さ約３～ 3.2 mの掘削時に随時立会調査を行い、土層断面の観察及び遺構・遺物の有無の確認を行った。

調査の結果、アスファルトの下は砕石が敷かれ、その下には黒褐色粘土層、黄色褐色土層、砂礫層などが続き、地表下２m付近から下は安定した黄褐色粘土層が見られたが、今回も遺構・遺物は確認されなかった。



第１図　釜無川流域下水道敷設事業位置図

第２図　調査地点位置図

掘削状況

39　都留バイパス建設事業　№１～９地点　立会　《美通遺跡》

所在地	都留市字井倉地内	調査期間	平成 22 年 5 月 10 日～ 12 月 16 日の 6 日間
担当者	笠原みゆき	調査面積	2.2㎡

調査経緯及び事業内容と結果

美通遺跡の立会調査は、H21 年度の発掘調査中に、赤道など様々な理由により調査ができなかった地点を対象にしている。また、バイパス建設に関係する電柱の移設時にも、立会をおこなった。調査地点は№１～ 12 まであり、このうち№１・12 は、試掘調査として報告する。№ 10・11 については、表土直下がすぐ溶岩であった。

立会をおこなった№３～№９について、日付ごとに報告する。

5 月 10 日（月）、№７地点付近で、電柱の移設工事が行われた。１m四方で、深さ 1.1 mまで手掘りで掘削した。現状で水路に近接しているため、水路を構築する際の掘削により、埋め土が観察された。遺物は確認されなかった。

6 月 25 日（金）、№４地点付近で、電柱の移設工事が行われた。１m四方で、深さ 1.1 mまで手掘りで掘削した。民家と畑の境で、段差が 1.2 mほどあり、掘削地点も埋め土の要素が強く、遺物も確認されなかった。

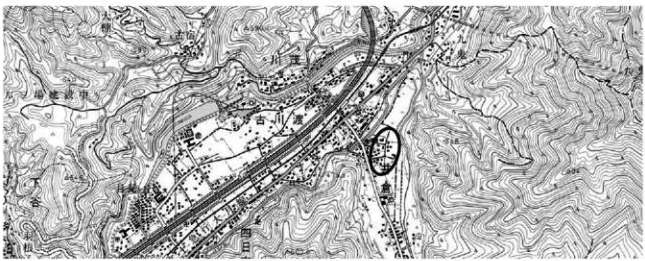
7 月 1 日（木）、№３・４地点の立会を行った。この地点は生活道路であり、掘削後、砕石を入れて車両の通れる道路に復元するとのことであったため、長さ約 20 m、幅２m、深さ１mの範囲で遺構・遺物の確認調査を行った。この地点は、本調査Ａ区 2-1 とＡ区 2-3 の境を走る生活道路で、Ａ区 2-3 とは約 0.5 mの段差ももち、Ａ区 2-1 とは、約１mの段差をもつ。このため、道路構築時にかなり掘削されていることが推定された。実際、１mほど掘削しても、ほとんどが砂利層であり、遺構・遺物は確認されなかった。

7 月 28 日（水）、№５・６・８・９の立会調査をおこなった。この４箇所は赤道で、バイパス建設時に整備対象となった地点である。４箇所とも幅１m、長さ３～４m、深さ 1.5 mのトレンチを設置した。その結果、遺物・遺構とも確認できなかった。

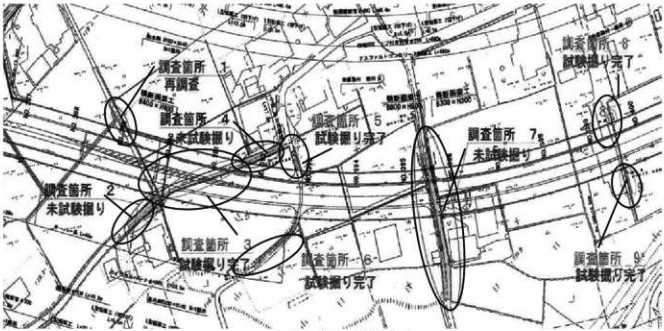
12 月 7 日（火）、№７の南側地点に H 鋼を打ち込む工事に伴い立会をおこなった。この地点は、今年度、調査をおこなったＢ区４に接するため調査をおこなったが、遺構・遺物は確認できなかった。

12 月 16（木）、№２の立会調査をおこなった。№４地点に続く生活道路の整備に伴うもので、1.6m ほど掘り下げたが、道路構築時の掘削がかなり進んでいて、遺構・遺物は検出できなかった。

№７については、平成 23 年調査のため、来年度の報告となる。



第１図　都留バイパス建設事業（美通遺跡）位置図



第２図　立会地点配置図

No. 6 地点立会状況

8 地点立会状況

No. 7 地点付近立会状況

40　法務省甲府地方検察庁仮庁舎建設事業　立会《甲府城下町遺跡及び徽典館跡》

所在地	甲府市中央1丁目11番地（中央公園敷地内）	調査期間	平成22年5月17～7月8日
担当者	保坂和博、小澤美和子	調査面積	250㎡

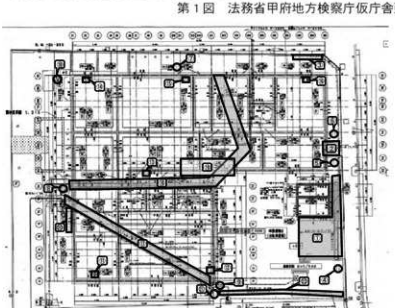
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、法務省甲府地方検察庁新営庁舎建設による仮庁舎建設事業に伴う立会調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡及び徽典館跡地の範囲内に当たり、平成20年度に実施した事前の試掘調査により、現地表面下0.9ｍに江戸時代の文化層が確認されていたことから、極小な範囲で掘削深度が文化層に及ぶ地点【5月17日①地点（入口ゲート・スロープ設置）、18日②地点（旧入口撤去）、③地点（塀設置）、④～⑥地点（樹木移設）、20日⑦～⑨地点（樹木移設）、31日⑩地点（電柱埋設）、⑪～⑮地点（建物基礎設置）、6月1日⑰～⑱地点（電気配管）、28日⑲地点（地下構造物撤去）、30日⑳地点（電気配管）、7月7日㉑地点（電柱埋設）、8日㉒地点（電気配管）】において工事工程に合わせて立会調査を実施した。

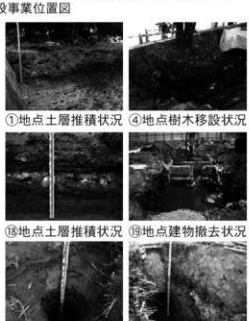
土層堆積状況は、基本的に埋土範囲であるが、①、⑩、⑰～⑲、㉑、㉒地点で江戸時代の文化層を確認した。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

第1図　法務省甲府地方検察庁仮庁舎建設事業位置図



第2図　立会調査位置図



①地点土層堆積状況　④地点樹木移設状況

⑱地点土層堆積状況　⑲地点建物撤去状況

㉑地点土層堆積状況　㉒地点土層堆積状況

41　県立都留高等学校消火栓等修繕事業　立会 《大月遺跡》

所在地	大月市大月２丁目11－20	調査期間	平成 22 年 8 月 10 日
担当者	笠原みゆき	調査面積	0.66㎡

調査経緯及び事業内容と結果

調査は、県立都留高等学校敷地内、消火栓配管が漏水し、その場所を掘削するということでの立会調査である。

県立都留高等学校の敷地から南側の大月バイパス周辺は、大月遺跡という縄文時代・平安時代の周知の遺跡である。過去の調査は 10 次まで行われ、今回の対象地点は、第３・４次調査区の間に挟まれた位置であったため、立会調査をおこなった。

掘削の範囲は幅 0.6 m・長さ 1.1m・深さ１mで、配管の漏水箇所を確認修繕工事が行われる前に、土層観察、遺構・遺物の確認を行った。その結果、配管が１mで確認されるまでは、敷設時の掘削工事の影響が大きく、ほとんどが埋め土であった。配管下に若干の黒色土が観察できたが、遺物等は確認できなかった。

第１図　県立都留高等学校消火栓等修繕事業　位置図

調査地点全景

掘削状況１

掘削状況２

42　県立甲府工業高等学校グラウンド避雷針設置事業　立会　《塩部遺跡》

所在地	甲府市塩部２丁目７－１	調査期間	平成 22 年 8 月 19 日
担当者	高野玄明	調査面積	13.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

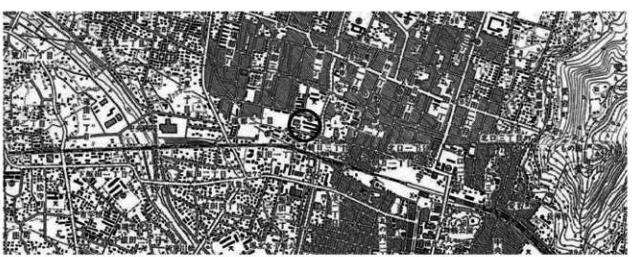
調査を実施した県立甲府工業高等学校及びその周辺には、周知の埋蔵文化財包蔵地「塩部遺跡」が存在し、平成７（1995）年に甲府工業高校改築にあたり本発掘調査が実施されている。

今回は、グラウンド南北に設置されている防御ネットの先端部分に避雷針を取り付け、避雷針からの電流を地中に放電するための銅線等の埋設のため、掘削が行われることから、立会調査を実施することになった。

銅線等が埋設される箇所は北側ネット側に３箇所、南側ネット側に２箇所の合計５箇所の掘削が行われた。

掘削規模は、幅 0.6 m、長さ 4.5 m、深さ 0.6 mである。

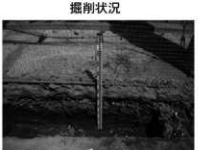
調査の結果、掘削により確認された土層は、１層＝ 0.1 ～ 0.15 mでグラウンド表土（砂層）、２層＝ 0.15 ～ 0.20 mで砕石層、３層＝ 0.3 mで暗褐色粘質土（埋め土）であった。掘削深度が 0.6 m程と浅く、グラウンド造成の範囲内であることから、遺構や遺物の確認には至っておらず、埋蔵文化財について何ら問題は見られなかった。



第１図　県立甲府工業高等学校グラウンド避雷針設置事業位置図

第２図　立会調査位置図

掘削状況



土層堆積状況

43　国道 140 号電線共同溝（電線類地中化）設置事業　立会　《大坪遺跡》

所在地	甲府市和戸町地内	調査期間	平成 22 年 10 月 12 日
担当者	高野玄明	調査面積	12.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

国道 140 号と国道 411 号交差点部分において、電線共同溝埋設に伴う掘削工事が計画されている。これについて、埋蔵文化財包蔵地「大坪遺跡」内であることから、埋蔵文化財の協議を行い、立会調査を実施することとなった。なお、国道利用者や周辺住民への配慮から、夜間での工事としている。

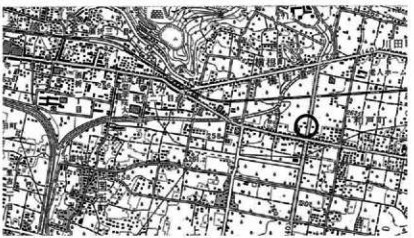
今回の掘削工事は、工事着手前に地中の埋設物等の確認を行う試掘調査で、掘削規模は長さ 5.0 m、幅 2.5 m、深さ 2.9 mの範囲で行われ、この範囲についての立会調査を実施した。

調査の結果、アスファルト舗装から約 90㎝下部までは、道路工事等の掘削が及んでおり、それより下部は、自然堆積による黒色粘土や灰色砂層（細粒）が見られた。

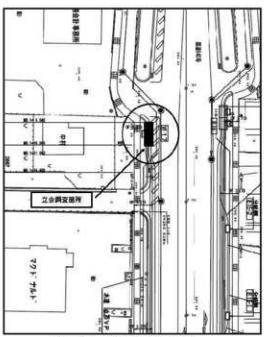
今回の調査箇所について、埋蔵文化財は確認できなかったものの、今後、本体工事が国道 140 号線の交差点南北方向 235 mの範囲（掘削深度 2.5 m）で行なわれるため、立会調査は必要となる。

これについて、電線共同溝埋設工事が行われる箇所は、甲府市下水道敷設工事範囲と同一箇所に埋設され、なおかつ、本事業より下水道事業は深く掘削し埋設される。（同一施工業者）。

このため、学術文化財との協議の中で、下水道事業は甲府市教育委員会が既に交差点付近の工事で立会調査を実施しており、本事業は下水道工事終了後に埋設工事が行なわれることから、甲府市教育委員会が行なう立会調査の中で、必然的に本事業に関する埋蔵文化財の対応も実施していることとなる。

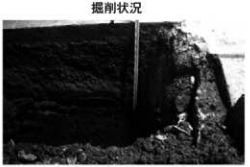


第 1 図　国道 140 号電線共同溝（電線類地中化）設置事業位置図



第 2 図　立会調査位置図

掘削状況



土層堆積状況

44　峡東流域下水道建設事業（峡東ネットワーク幹線下水道工事）　立会（山梨市下石森地内）

所在地	山梨市下石森地内	調査期間	平成 22 年 10 月 13 日
担当者	出月洋文	調査面積	10㎡

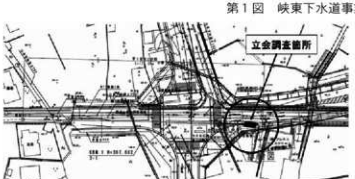
調査経緯及び事業内容と結果

本件の立会は、周知の埋蔵文化財包蔵地である雲林遺跡の隣接地における峡東下水道事業（峡東ネットワーク幹線下水道工事）に伴って、平成 22 年 10 月 13 日に実施している。

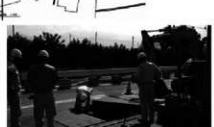
今回の立会調査は、事前の流域下水道事務所と学術文化財課との協議の結果に基づき、事業計画が周知の雲林遺跡に隣接することから、念のため掘削状況を観察して、埋蔵文化財への影響があるかを見るものとして位置づけられた。

立会調査は、延長 123 mの工事計画の中で、もっとも雲林遺跡と接近する箇所について、掘削状況を確認したもので、県道山梨市停車場線の路面から、幅 1.2 m、深さ約 2.6 mの掘削が行われた部分を対象とした。通行量の多い県道敷での掘削であり、安全確保のため、掘削と同時に支保が行われるため、断面の観察は十分には行えなかった。掘削下床面や排土を確認したところ、遺構や遺物等、埋蔵文化財に関する情報は確認できず、周知の範囲に隣接するところであることも勘案して、さらに工事を進めても差し支えないとした。

第 1 図　峡東下水道事業位置図



第 2 図　立会調査位置図



調査状況

掘削状況

45　県営谷村団地立替えに伴う集会場建設事業　立会　（都留市つる３丁目地内）

所在地	都留市つる３丁目－６	調査期間	平成 22 年 10 月 27 日
担当者	笠原みゆき	調査面積	約 27㎡

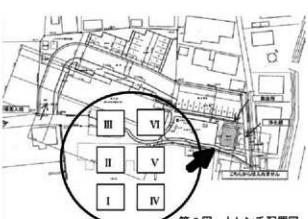
調査経緯及び事業内容と結果

調査は、周知の埋蔵文化財「徳重遺跡（遺跡分布図№ 13）」に隣接する場所で、県営谷村団地建替えに伴う集会場の基礎工事についての立会調査である。基礎は６カ所あり、重機による掘削作業が終了した時点での確認調査であった。なお本報告では、それぞれの基礎に、便宜的にⅠからⅥまでの番号を付して報告する。

立会調査の対象となったそれぞれの基礎平面は約 2.6ｍ×約 2.6ｍで、掘削深度は約 1.6ｍである。地表から 0.6ｍほどは旧建物に伴う砕石層となっており、砕石層下には 0.2m ほどの水田耕作土と 0.2m ほどの水田床土が確認出来た。この水田の床土層から下が、遺構や遺物を含む文化層となっている。しかし、６カ所掘削した基礎部分のほとんどが、旧建物基礎で壊された状態であり、堆積が残る部分はとても少なかったが、基礎Ⅰ・Ⅱの掘削断面から平安時代の住居跡の一部が確認できた。

掘削断面を詳細に観察した結果、基礎Ⅰでは、住居跡の張床と思われる厚さ 0.02m ほどの黄灰褐色の層が確認でき、遺物は土師器坏の破片が数点出土した以外は確認できなかった。基礎Ⅱでは、壁面に焼土と灰の混ざる層が確認でき、遺物も数点発見された。床面を精査したところ、旧基礎で壊されていたものの、カマドの袖の一部が検出できた。基礎工事中に従来把握されていない遺跡が確認されたことから、法的な位置づけを与える必要があり、当該地の小字が城ノ腰でその名を冠した遺跡が別にあることから「城ノ腰２遺跡」という遺跡名をつけ、登録をおこなった。

第１図　県営谷村団地立替え事業（城ノ腰第２遺跡）位置図



第２図　トレンチ配置図

基礎Ⅱ－住居跡検出状況

46　平等川基幹河川改修事業　立会 《大俣遺跡》

所在地	笛吹市春日居町鎮目 7071 付近	調査期間	平成 22 年 11 月 8 日
担当者	高野玄明	調査面積	31㎡

調査経緯及び事業内容と結果

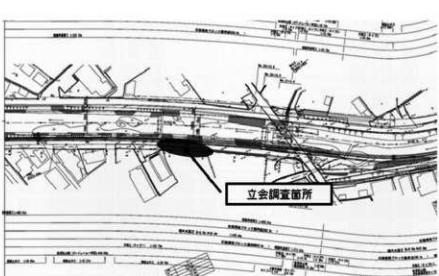
平等川河川改修については、笛吹市春日居町内～甲府市七沢町地内において、堤防跡、河岸跡などの推定地や埋蔵文化財包蔵地において試掘調査や立会調査を実施している。

今回の調査は、春日居町鎮目地内の平等川河川改修に伴い、堤防の川裏側（埋蔵文化財包蔵：大俣遺跡）が掘削されるため、立会調査を実施することとなった。

掘削は、堤防の川裏側に幅 1.3 m、長さ 23.6 m、深さ 0.75 m～ 0.85 mの範囲で行われた。

掘削により確認された土層は、１層＝暗褐色粘質土（耕作土）、２層＝褐灰色砂質土・砂礫土が確認された。施工に当たり、これ以上の掘り下げは行わないことから、２層以下の状況は不明であるものの、今回の掘削範囲においては埋蔵文化財の確認はできなかった。このため、今回の事業地内での施工については問題ないものと思われる。

第１図 平等川基幹河川改修事業（笛吹市春日居町鎮目地内）位置図



第２図　立会調査位置図

掘削作業風景

土層断面確認状況

47　平等川基幹河川改修事業　立会 《堤防遺跡推定地／七沢の渡し場》

所在地	甲府市七沢町、笛吹市石和町唐柏地内	調査期間	平成 22 年 11 月 9 日・22 日、12 月 6 日
担当者	高野玄明	調査面積	32㎡

調査経緯及び事業内容と結果

平等川基幹河川改修事業については、笛吹市春日居町・石和町、甲府市七沢町地内において事業が進められており、改修事業内容を踏まえて試掘調査や立会調査を実施している。

今回の立会調査は、①～④の範囲に於いて事業着手前に重機によりトレンチ設定し掘削し調査を行った。

①地点

平等川左岸に 6.0 × 1.0 mのトレンチ 2 箇所を掘削した。いずれのトレンチも表土の耕作土の下部には、灰褐色砂質土と砂礫層の河川による水平堆積が見られ、地表下 2.7 mには礫層とともに湧水が見られた。

②地点

平等川右岸に 2.0 × 2.0 m、深さ 2.4 mの規模で掘削した。表土以下は、黄褐色・灰褐色の砂質土や礫層の河川による水平堆積が確認された。

③地点

平等川左岸に 2.0 × 2.0 m、深さ 2.0 の規模で掘削した。表土以外は、黄褐色砂質土と青色砂質土が確認された。

④地点

③地点の上流の左岸に、2.0 × 2.0 m、深さ 1.7 mの規模で掘削した。河川の自然堆積による暗黄褐色砂質土・青色砂質土が見られる。

上記のように、①～④地点について、立会調査を実施したが、いずれの箇所からも表土以下、河川等による自然堆積の砂層や礫層であり、堤防等の人為的な構築物の痕跡など見られなかった。また、遺物も確認できなかったことから、今回の調査地点に関し問題ないものと判断される。

第 1 図 平等川基幹河川改修事業
（甲府市七沢町・笛吹市石和町唐柏地内）位置図

第 2 図　立会調査位置図

掘削作業風景

土層断面確認状況

48　県立図書館アーケード設置事業　立会　《武田城下町遺跡・甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市北口２丁目　地内	調査期間	平成 22 年 11 月 9・11・17 日
担当者	吉岡弘樹	調査面積	40㎡

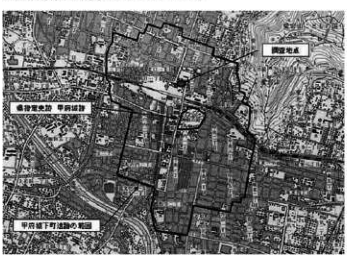
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県立図書館建設に伴い、JR 甲府駅北口に接続するアーケードを東西方向に設置する工事である。

当地の西方には塩部遺跡・緑が丘一丁目遺跡・緑が丘二丁目遺跡や南東方向には朝気遺跡など集落が形成された痕跡のある遺跡も確認されており、当地点周辺でも古墳時代の集落が存在した可能性は高い。

中世（武田城下町期）での当該地は、武田城下町の南端部にあたる寺域地やそれに付随する町となっており、過去の調査では、16 世紀代の墓坑なども検出されている。また、2004 年３月発行の甲府城下町発掘調査報告書によれば甲府城下町と武田城下町は現在の北バイパスのやや北寄り穴山小路から県庁正門のあたりまでが重なり合う範囲として捉えられている。

今回の立会調査では、既に当地点が過去において大きく掘削等が行われ撹乱などの影響が大きいと推定されるため、アーケードの支柱掘削地点の幅約 2m、長さ約 5m 程の掘削箇所の内、比較的状態が良いと思われる地点の土層断面を観察することとした。



第１図　県立図書館アーケード設置事業位置図

その結果、西端では、約 10cm のアスファルト舗装と約 90cm 厚の撹乱の多くみられる表土層直下、淡茶褐色土層（約 30cm）・地山層である青灰色粘質土層（約 70cm 以上）の層序が確認できた。また、中央付近ではアスファルト舗装と砕石層（約 90cm）の下に地山層である暗青灰色粘質土層（約 40cm）・青灰色粘質土層（約 30cm）・淡茶褐色粘質土層（50cm 以上）が検出された。東端においては、アスファルト舗装の下、砕石・撹乱層と続き、江戸期の地山層である黄褐色粘質土層が地表下約１m で確認できた。なお、全ての土層確認地点での遺構・遺物の検出は無かった。

掘削状況

土層堆積状況

49　笛吹警察署金田駐在所建設事業　立会 《橋立遺跡》

所在地	笛吹市一宮町竹原田字大日町 14－1	調査期間	平成 22 年 11 月 15 日・24 日
担当者	高野玄明	調査面積	64㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業について、事前に埋蔵文化財確認面までの深さを調べるための試掘調査を 9 月 1 日に実施しており、地表下 0.25 ～ 0.35 mで暗褐色粘質土に土器の小破片やカーボン粒を包含する黒褐色粘質土が確認されており、事業課に対して、この黒色粘質土を保護する形で建設するよう報告した。

しかし、設計上の問題から、盛土等の保護措置が難しいこと、さらには約 0.4 ～ 0.6 m程の掘削が行われるため今回の立会調査を行うこととなった。

◎平成 22 年 11 月 15 日（外柵工事）

第 2 図の外周部分に、長さ 26.8 m、幅 1.0 m、深さ 0.4 mの規模で外柵基礎工事による掘削が行われることから、土層断面等による遺構や遺物の確認を行った。

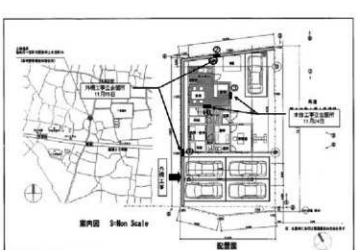
◎平成 22 年 11 月 24 日（建物本体工事）

別添図の建物本体工事に伴う基礎工事幅 0.6 m、深さ 0.6 m（布基礎）部分について、土層断面や遺構や遺物の確認を行った。

2 回における立会調査の結果、試掘調査で確認され土器の小破片等を包含する暗褐色粘質土がみられ、それを 10 ～ 20cm程掘り込む状況であったものの、遺構や遺物の確認はできなかった。

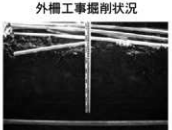
今回の外柵工事や建物本体工事に関し、試掘調査時に確認された暗褐色粘質土が地表下 30 ～ 40 cm程で確認されている。しかし、今回の掘削範囲において、遺構や遺物の検出には至らず、今回の駐在所建設に関して支障ない旨を伝えて立会調査を終了した。

第 1 図　笛吹警察署金田駐在所建設事業位置図



第 2 図　立会調査位置図

外柵工事掘削状況



土層堆積状況

50　鎌田川河川改修事業　立会　《堤防遺跡推定地》

所在地	中央市大田和地内	調査期間	平成 22 年 11 月 22 日
担当者	高野玄明	調査面積	4㎡

調査経緯及び事業内容と結果

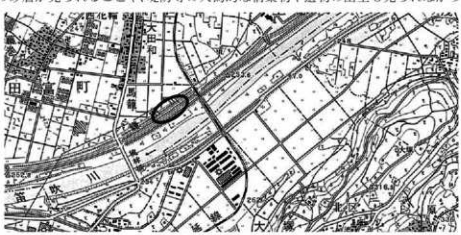
鎌田川改修事業については、鎌田川と東花輪川に挟まれる堤防を除去し、両河川（鎌田川・東花輪川）を一つの河川（鎌田川）に改修する工事である。このため、挟まれた堤防部分の掘削工事の際、同様に堤防断面の観察を行なうこととした。

立会調査は、重機により幅 1.0 m× 6.0 m、深さ 2.6 mを掘削し調査を行った。

掘削したトレンチ内は、客土の下部は、河川の水平堆積による白色砂層と赤褐色砂層が見られ、1.0 m程で湧水が見られる。

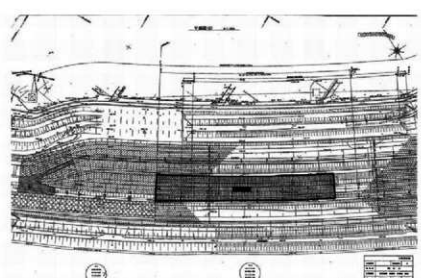
この結果、河川による水平堆積の砂層が見られることや、堤防等の人為的な構築物や遺物の出土も見られなかったため、埋蔵文化財に関し問題ないものと判断した。

また、両河川に挟まれた現在の堤防について、一部断面掘削し、観察を行った。堤防の表面には暗褐色土の表土が見られ、白色砂層と、赤褐色砂層を交互に堆積している状況が窺え、構築部材等の確認には至らなかった。



第 1 図 鎌田川河川改修事業（中央市大田和地内）位置図

掘削作業風景



第 2 図　立会調査位置図

土層断面確認状況

51　酪農試験場場内整備（場内通路舗装）事業　立会 《酒呑場遺跡》

所在地	北杜市長坂町長坂上条 621－2 地内	調査期間	平成 22 年 12 月 1 日
担当者	高野玄明	調査面積	83㎡

調査経緯及び事業内容と結果

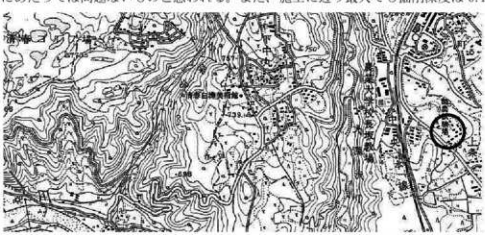
酪農試験場場内の作業用通路の舗装工事の実施に伴い、現地で協議を行った。この結果、埋蔵文化財の状況（深さ等）を確認し、施工方法（掘削深度や盛土等）の参考とするため、試掘調査を行うこととし、同年 7 月 13 日に試掘調査を実施し、各施工箇所毎における埋蔵文化財包蔵地のデータを提出している。

今回の立会調査は、前回の試掘調査の結果をふまえて、施工により遺構・遺物の確認面の一部に掘削が及ぶため、①・②箇所（別添図）の立会調査を実施することとなった。

立会調査は、掘削の一部が遺構・遺物確認面に及ぶ別添図①・②の箇所について行った。

施工範囲は①が幅 3.0 m、長さ 41 m、②が幅 3.0 m、長さ 42 mで範囲で行われる。これを踏まえて①・②とも、その中心部に幅 1.0 m、長さ 41 m～ 42 mの範囲で掘削を実施し、調査を行った。

調査の結果、掘削深度が最大で 0.4 m程度の掘削であるため、一部確認面であるローム層に 0.1 ～ 0.15 mまで及び、②地点で縄文時代中期の土器の小破片数点が見られたが、遺構には伴っておらず、また、これ以上の掘削が及ばないことから、施工にあたっては問題ないものと思われる。また、施工に辺り最大でも掘削深度は 0.4 mであり、掘削をお願いした範囲内では、砕石など造成されている範囲内で、一部分でローム層を掘り込む程度であった。従って、酪農試験場内での通路部分に当たる箇所の舗装工事に関する立会調査は、全く問題無いものと判断できる。



第 1 図　酪農試験場場内整備（場内通路舗装）事業位置図

第 2 図　立会調査位置図

掘削トレンチ確認状況

土層確認状況

52　県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業　立会《原町農業高校前遺跡》

所在地	北杜市長坂町塚川地内	調査期間	平成 22 年 12 月 9 日
担当者	保坂和博	調査面積	48㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は周知の埋蔵文化財包蔵地である原町農業高校前遺跡の範囲内における県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業に伴い実施された。

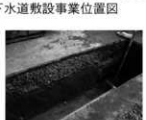
これまでに峡北地区総合学科高校（北杜高校）整備事業に伴い平成 12 年度から 14 年度にかけて 3 次にわたり発掘調査が実施され、縄文時代中期や平安時代の集落跡などが発見されていることから、学校施設課と学術文化財課との協議に基づき、工事工程に合わせ平成 22 年 12 月 9 日から平成 23 年 1 月下旬にかけて立会調査を実施することとなった。

12 月中での立会調査は第 1 日目（12 月 9 日）のみとなり、市道部分から敷地内にかけて長さ約 10 m、幅約 1.25 m、深さ約 1.35 mの掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。

土層堆積状況は、市道部分では掘削開始地点で既存の下水道本管の埋設をアスファルト下 1.25 mで確認したが、それ以外はアスファルト層（約 10㎝）、砕石層（約 40㎝）、暗褐色土層（約 15㎝）の各埋土層が検出し、さらにその下にローム層（地山層）が確認された。敷地内部分では、砕石層（約 20㎝）、暗褐色土層（約 15㎝）、ローム層が確認された。立会調査の結果、遺構・遺物ともに、いずれの層からも全く検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

第 1 図　県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業位置図

第 2 図　立会調査位置図



市道部分土層堆積状況

市道部分排水管埋設状況

敷地内土層堆積状況

敷地内排水管埋設状況

53　貢川河川改修事業　立会《金の尾遺跡》

所在地	甲斐市竜王新町地内	調査期間	平成 22 年 12 月 21 日
担当者	保坂和博	調査面積	5.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、地域自立活性化河川改修事業による貢川の河川改修で、既存の護岸擁壁と堤防を撤去し、新たな護岸擁壁と堤防を設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である金の尾遺跡の範囲内に当たり、これまでに実施された発掘調査により、弥生時代後期の拠点的な集落跡が確認されていることから、平成 22 年 12 月 20 日に実施した現地協議に基づき、既掘（既存の護岸擁壁や堤防を建設する際に掘削）範囲を除き、新たに掘削される場所（4.5 m× 40m=180㎡）を対象に立会調査を実施した。

第 1 地点（長さ約 1.5 m、幅約 1 m、深さ約 1.1m）、第 2 地点（長さ約 2 m、幅約 1 m、深さ約 0.9m）、第 3 地点（長さ約 2 m、幅約 1 m、深さ約 0.9m）において遺構確認と土層観察を行った。

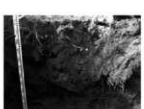
各地点における土層堆積状況は、表土層（1 層）以下は、貢川による自然堆積層（河川堆積層）となり、2 層：暗灰黄色シルト層＋暗灰黄色砂礫層、3 層：暗灰黄色シルト層、4 層：にぶい黄褐色シルト層、5 層：黄灰色砂層が確認された。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えないと認められる。

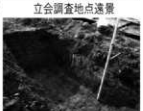
第 1 図　貢川河川改修事業位置図

第 2 図　立会調査位置図

立会調査地点遠景



第 1 地点土層堆積状況



第 2 地点土層堆積状況

第 3 地点土層堆積状況

54　山梨リニア実験線建設事業　踏査（笛吹市八代町米倉地内）

所在地	笛吹市八代町米倉地内	調査期間	平成 22 年 12 月 14 日
担当者	保坂和博	調査面積	――

調査経緯及び事業内容と結果

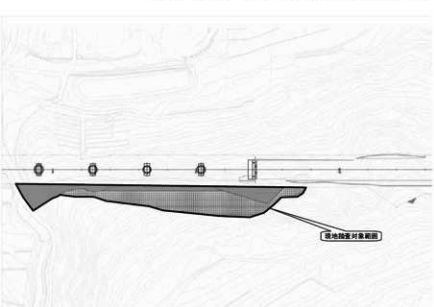
笛吹市八代町米倉地内（①－１地点）においては、平成 21 年 7 月 29 日に現地踏査を実施したが、仮設道路の計画変更により掘削範囲（①－１地点隣接地）が新たに広がることから今回の現地踏査を実施した。

踏査方法は、対象地がブッシュで覆われているため現地で確認された工事用境界杭（路盤境界杭）に沿って地形的環境等に基づき埋蔵文化財の確認を行った。

踏査の結果、掘削対象地（①－１地点隣接地）は、北向急傾斜かつ高低差の著しい等高線の入り組んだ地形であり、また、遺物等の表面採集は確認されなかったことから遺跡はないものと判断される。なお、隣接地におけるこれまでの試掘結果および歴史的環境からも遺跡はないものと判断される。

以上のことから、今回の踏査対象地範囲内に埋蔵文化財は確認されなかったため、工事を行うに当たり支障はないものと判断される。

第１図　山梨リニア実験線（八代町米倉地内）建設事業位置図



第２図　現地踏査位置図

調査地点遠景

調査地点近景

報 告 書 抄 録

ふ　り　が　な	やまなしけんないぶんぷちょうさほうこくしょ
書　　　　名	山梨県内分布調査報告書（平成22年）
シ リ ー ズ 名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	280集
編 集 者 名	保坂和博・小澤美和子
発　行　者	山梨県教育委員会
編 集 機 関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒400－1508　山梨県甲府市下曽根町923　TEL　055－266－3016
発 行 年 月 日	2011年3月25日

事業名・遺跡名	所在地	調査面積	調査対象面積	調査期間
1　県立笛吹高等学校建設事業《石和高校周辺遺跡》	笛吹市石和町市部3地内	70.3㎡	3,700㎡	平成22年1月13~14日
2　吉田河口湖バイパス建設事業《池之元遺跡》	富士吉田市旭町3丁目1805外地内	205㎡	4,084㎡	平成22年1月25日~27日
3　中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業《青柳河岸跡・町屋口遺跡》	南巨摩郡富士川町青柳字整理地1678－1外	492㎡	11,436㎡	平成22年1月25日~27日、29日
4　中部横断自動車道建設事業《清水原遺跡》	南巨摩郡南部町中野字清水原地内	60㎡	1,600㎡	平成22年2月15日
5　中部横断自動車道建設事業	南巨摩郡南部町南部字古城山9575地先	185㎡	15,000㎡	平成22年2月16、17日
6　中部横断自動車道建設事業《山の上遺跡》	南巨摩郡身延町上八木沢字清水地内	21.6㎡	1,000㎡	平成22年2月18日
7　中部横断自動車道建設事業	南巨摩郡身延町上八木沢字鰍原地内	210㎡	4260㎡	平成22年3月1、2日、8月9、10日
8　山梨リニア実験線建設事業	笛吹市御坂町竹居字横堰4679外	34㎡	566㎡	平成22年2月23日
9　山梨リニア実験線建設事業（G地区）	笛吹市八代町竹居字南原1058	52㎡	270㎡	平成22年3月18日
10　山梨リニア実験線(増用地No.2地点工事用道路)建設事業《中丸遺跡》	笛吹市境川町小山字中丸845-1外地内	73㎡	332㎡	平成22年5月19日
11　県庁舎耐震化等整備（第一南別館解体基礎撤去）事業《甲府城跡》	甲府市丸の内1丁目6－1	83㎡	900㎡	平成22年3月8日~12日、15日
12　県庁舎耐震化等整備（議事堂仮設庁舎建設）事業　《甲府城跡》	甲府市丸の内1丁目6－1	70㎡	360㎡	平成22年7月10~17日
13　原町農業高校前遺跡保存状況確認調査　《原町農業高校前遺跡》	北杜市長坂町塚川178	208㎡	3,500㎡	平成22年6月1~3日
14　西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業	山梨市万力地内外	1320㎡	60,000㎡	平成22年6月7日~10月13日
15　鉄塔移設事業　《真篠城跡》	南巨摩郡南部町福士字真篠1049－2地内	1㎡	952㎡	平成22年6月15日
16　山梨県立農業大学校施設整備事業	北杜市長坂町長坂上条3251地内	15㎡	95㎡	平成22年6月22日
17　酪農試験場場内整備（場内通路舗装）事業《酒呑場遺跡》	北杜市長坂町長坂上条621－2地内	16㎡	279㎡	平成22年7月13日
18　国道411号城東Ⅱ期バイパス建設事業	甲府市朝気2丁目1086番地外	88㎡	2,290㎡	平成22年7月26日
19　国道411号城東Ⅱ期バイパス建設事業	甲府市朝気地内	105㎡	10,400㎡	平成22年12月6、7日
20　都留バイパス建設事業No.12地点	都留市井倉259－1外	52㎡	850㎡	平成22年7月28日
21　都留バイパス建設事業No.1地点《美通遺跡》	都留市井倉548付近	2.2㎡	14㎡	平成22年10月13日
22　畜産課の課題に係る調査	甲斐市菖蒲沢3185外	150㎡	1,800㎡	平成22年8月5、6日
23　笛吹警察署金田駐在所建設事業《橋立遺跡》	笛吹市一宮町竹原田字大日町14－1	13㎡	198㎡	平成22年9月1日
24　県立笛吹高等学校建設事業《石和高校周辺遺跡》	笛吹市石和町市部3地内	144㎡	1,115㎡	平成22年1月4日
25　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（日本庭園改修）事業	甲府市下曽根町地内（風土記の丘・曽根丘陵公園内）	140㎡	140㎡	平成22年1月14日、21日、22日
26　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（バンガロー基礎撤去）事業	甲府市下向山地内（風土記の丘・曽根丘陵公園内）	6.5㎡	6.5㎡	平成22年3月29日
27　警察署等整備事業（運転免許課都留分室他下水道接続工事）	都留市下谷3－2－18外	3.6㎡	20㎡	平成22年1月18日、2月23日
28　県立中央病院北口院長宿舎解体事業　《武田城下町遺跡・甲府城下町遺跡》	甲府市北口3丁目83	70㎡	243㎡	平成22年1月25~27日
29　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業《柚木遺跡》	笛吹市八代町竹居字柚ノ木1214外	8㎡	30㎡	平成22年2月12日
30　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業	笛吹市御坂町竹居2322-4外	87㎡	633㎡	平成22年4月8、19日
31　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業《御坂中丸遺跡》	笛吹市御坂町上黒駒6209－2地内	10㎡	395㎡	平成22年4月19日
32　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業《中丸遺跡》	笛吹市境川町小山字中丸844－1地内	10㎡	900㎡	平成22年5月19日
33　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業	笛吹市御坂町上黒駒6074－1外地内	25㎡	1,000㎡	平成22年8月23日
34　山梨リニア実験線（黒駒トンネル終点側工事用道路）建設事業	笛吹市御坂町上黒駒地内	20㎡	181.4㎡	平成22年12月15日
35　県庁舎耐震化等整備（第一南別館解体基礎撤去）事業《甲府城跡》	甲府市丸の内1丁目6－1	50㎡	900㎡	平成22年3月1、4日
36　県庁舎耐震化等整備（本館南側駐輪場解体）事業《甲府城跡》	甲府市丸の内1丁目6－1	280㎡	300 ㎡	平成22年8月5、6日
37　国道141号（駒井地点）改築事業《駒井砂宮神遺跡》	韮崎市駒井字砂宮神2780－1外	25㎡	178㎡	平成22年4月26日、5月18日
38　釜無川流域下水道敷設事業《今井前第1・第2・第3遺跡》	南アルプス市地寺部地内	15㎡	500㎡	平成22年5月10~6月9日
39　都留バイパス建設事業No.1~9地点《美通遺跡》	都留市井倉地内	2.2㎡	20㎡	平成22年5月10~12月16日(うち6日間)
40　法務省甲府地方検察庁仮庁舎建設事業《甲府城下町遺跡及び徽典館跡》	甲府市中央1丁目11（中央公園敷地内）	250㎡	1,300㎡	平成22年5月17~7月8日
41　県立都留高等学校消火栓修繕事業《大月遺跡》	大月市大月2丁目11－20	0.66㎡	1.3㎡	平成22年8月10日
42　県立甲府工業高等学校グラウンド避雷針設置事業《塩部遺跡》	甲府市塩部2丁目7－1	13.5㎡	13.5㎡	平成22年8月19日
43　国道140号電線共同溝（電線類地中化）設置事業　《大坪遺跡》	甲府市和戸町地内	12.5㎡	12.5㎡	平成22年10月12日
44　峡東流域下水道建設事業（峡東ネットワーク幹線下水道工事）	山梨市下石森地内	10㎡	184.5㎡	平成22年10月13日
45　県営谷村団地立替えに伴う集会場建設事業	都留市つる3丁目－6	27㎡	50㎡	平成22年10月27日
46　平等川基幹河川改修事業《大祝遺跡》	笛吹市春日居町鎮目7071付近	31㎡	31㎡	平成22年11月8日
47　平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地／七沢の渡し場》	甲府市七沢町、笛吹市石和町唐柏地内	32㎡	32㎡	平成22年11月9、22日、12月6日
48　県立図書館アーケード設置事業《武田城下町遺跡・甲府城下町遺跡》	甲府市北口2丁目地内	40㎡	257㎡	平成22年11月9、11、17日
49　笛吹警察署金田駐在所建設事業《橋立遺跡》	笛吹市一宮町竹原田字大日町14－1	64㎡	198㎡	平成22年11月15、24日
50　鎌田川河川改修事業《堤防遺跡推定地》	中央市大和田地内	4㎡	4㎡	平成22年11月22日
51　酪農試験場場内整備（場内通路舗装）事業《酒呑場遺跡》	北杜市長坂町長坂上条621－2地内	83㎡	249㎡	平成22年12月1日
52　県立北杜高等学校往場下水道敷設事業《原町農業高校前遺跡》	北杜市長坂町塚川地内	48㎡	48㎡	平成22年12月9日
53　貢川河川改修事業《金の尾遺跡》	甲斐市竜王新町地内	5.5㎡	180㎡	平成22年12月21日
54　山梨リニア実験線建設事業	笛吹市八代町米倉地内	－	－	平成22年12月14日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第280集

山梨県内分布調査報告書
（平成22年）

印刷日　2011（平成23）年3月22日
発行日　2011（平成23）年3月25日
編　集　山梨県埋蔵文化財センター
〒400－1508
山梨県甲府市下曽根町923
Tel　055-266-3016
Fax　055-266-3882
発　行　山梨県教育委員会
印刷所　株式会社 峡南堂印刷所